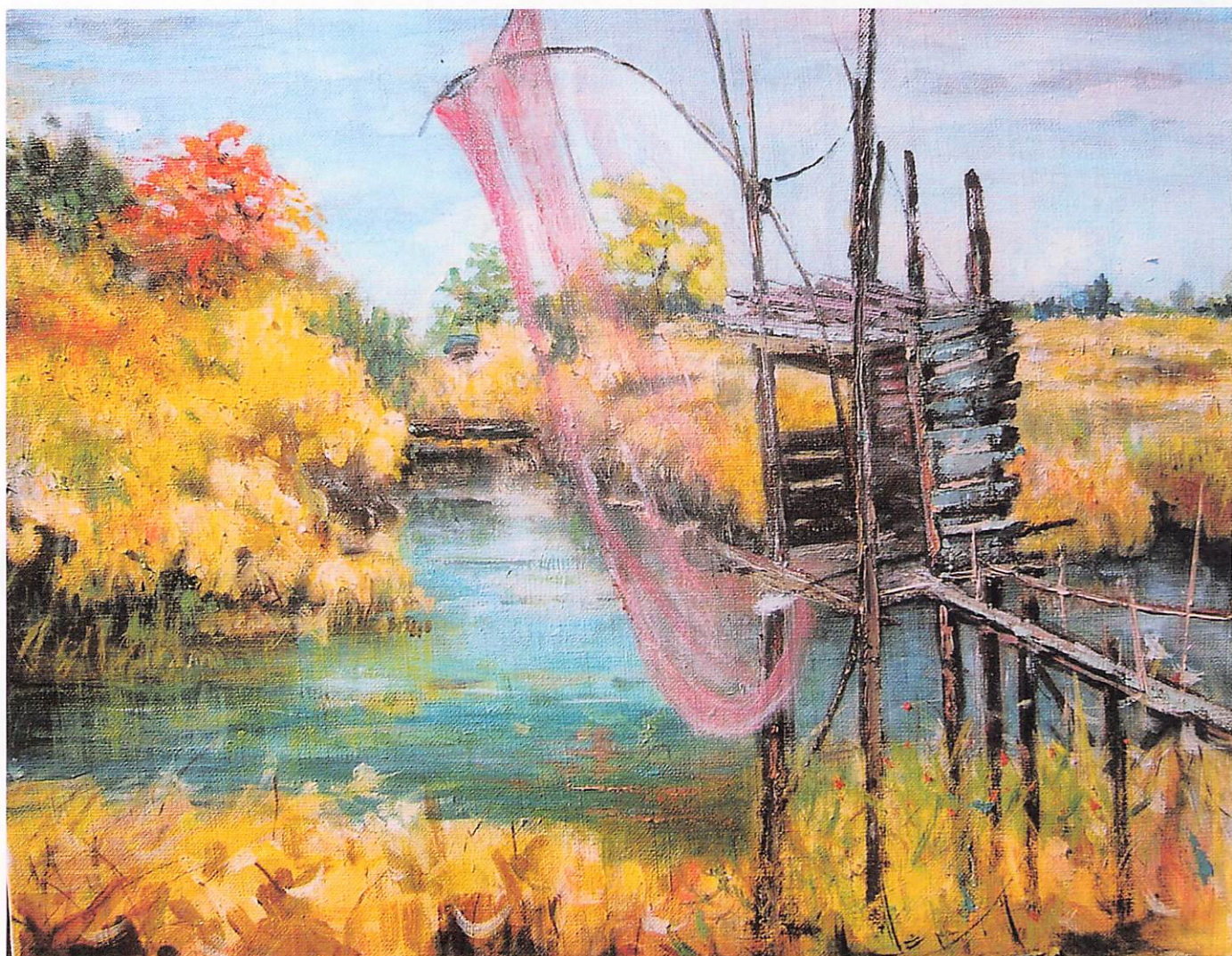


傳習館



東京同窓會會報

第3号 2004.1.1



よかやっかんも
続・野球部顛末記

東京同窓会の歩み (3)
昭和初期の柳河高女物語
白秋 2 題

表紙

題字は母校伝習館に掲出してある創立者立花鑑賢公の書の扁額の文字を、会長の江崎正直氏（高2）が臨書したものである。

絵は以前柳川の堀割で多く見られた四手縄通称「クモデ」といって子供の頃いつも遊んだ思い出があります。今では一〜二ヶ所位しか見られませんが有明海（両開地方）ではまだ数ヶ所見うけられます。

川口治彦 略歴

昭和19年生まれ 三橋町蒲船津219-5（自宅）

昭和38年 伝習館卒高14

平成9年 創三会（福岡南支部）入会

平成12年〜平成15年 創三会（東京都立美術館）出品

連続入選 現在創三公会会員富田貞見に師事

（有）古蓮

代表取締役 川口治彦（高14）

うなぎ料理 どりょう料理専門店

・昭和47年 開業

・福岡県山門郡三橋町下百町31-6

TEL 代表 0944-72-0026

FAX 0944-72-0026

全国各地にクール宅急便にて発送しております

鰻の蒲焼 1人前1800円より

せいろむし弁当 1500円 1800円 2100円

鰻の骨せんべい 1人前 600円

鰻の素焼 1人前 1800円より

傳習館



東京同窓會會報

東京同窓會本部より

賛助金のお礼とお願い／平成16年度分のご協力依頼会長 江崎正直	2
東京に輝ける三稜の星たち 東京同窓会の歩みーその3ー	3
柳川での同窓会総会報告・母校だより	4
東京同窓会総会予告	4
同窓会賛助金振込票通信欄コメント	5
同窓会決算収支報告書	6
ホームページへの来信紹介	7
ニュージーランド通信	8

先輩・後輩より

昭和初期の柳河高女物語（聞き書き）高女 31 跡部(古賀)愛子	8
トシを重ねるほど懐かしい青春時代の思い出 ーよかやっかんも（その2）ー	11
続・野球部顛末記	14
白秋と禅寺丸柿（王禅寺）.....高2 山田銀一郎	18
終の住処 阿佐ヶ谷時代の白秋	20
壮年から熟年へ ー東京五期会閉幕二十五周年記念会ー	20
オリンポスの蛍 ーギリシャあれこれ（二）ー	21
望郷そして「ムツゴロウ会」.....高9 境 延昭	22
帰省ドライブ ー国道1号・2号・3号ー	23
2003年毎日ファッション大賞受賞 ー「加茂克也」さんへのインタビューー	24

学年幹事より

鎌倉散策	26
20回卒関東地区同期会あれこれ	27
「東京35会」懇親旅行便り	27
募集	28
編集後記	28
東京同窓会組織図／学年幹事名簿	29

東京同窓会本部より

お礼とお願い

同窓会活性化のスタートを切った会報発行は、一月に創刊号、七月に第二号、そして今回第三号を数えるに至りました。

創刊号でお願いしました賛助金協賛に、多数の方々のご協力頂き厚くお礼申し上げます。

お読みいただいた通り、内容は老若男女の皆さん方のご投稿で多岐にわたり、お互いに初めて知る記事も多かったと思います。振込票通信欄を拝見しますと、会報が暖かく迎えられたことが伺われ、編集者一同胸をなでおろしております。同窓会意識というのは、まず情報の共有化から始まるといえます。

会報が皆様方に暖かく受け入れられたからには、継続しなくてはなりません。継続するには原稿と資金が必要です。創刊号、第二号と四〇ページの大冊になったこともあり、会計報告でご覧のように、刊行費用がかなりの額に上ります。私どもとしては会員の皆さん方のご協力で、できるだけ年二回の発行を維持しようと思います。

同封の振込用紙にて平成十六年度の賛助金ご協力お願いいたします。

平成十五年十二月

伝習館東京同窓会

会長 江崎 正直

卒回	氏名
高7	中園 喜久子
高7	松本 英三
高8	川崎 悦子
高9	中村 祐二
高9	高橋 雅子
高10	久保田 春実
高10	古賀 雄次郎
高11	吉川 照子
高11	城島 孝雄
高11	與田 広巳
高11	山浦 素明
高11	石橋 秀男
高11	伊東 勝久
高12	横田 博章
高13	松本文子
高13	松尾 正孝
高18	吉田 シヅカ
高19	森田 達雄
高20	石井 ヤス子
高22	田島 栄子
高21	中村 真由美
高21	柿野 貴美子
高23	坂本 智臣
高28	石橋 孝一

卒回	氏名
高	福島 たか子
協賛 1.5 口	
高5	武田 八重子
高9	池末 安男
高10	東 辰子
高10	待鳥 豊
高11	大坪 ミドリ
高23	桶口 貴美子
高32	咲村 あかね
高伝1	梅崎 俊行
協賛 1 口	
中44	富重 静雄
中46	内山田 敦
中55	古賀 昭夫
中56	成清 良孝
女45	末永 和子
女46	貴志 安子
女46	藤吉 智子
女47	井出 洋子
高3	塚田 時子
高3	高山 久吾
高3	臼井 ヒロ子
高4	塚本 行平
高5	大藪 則子
高5	野口 幹彦
高5	松尾 久子
高6	森 時子
高7	古賀 日出雄

卒回	氏名
女47	広瀬 節子
協賛 2.5 口	
中33	阿部 渡
中45	北島 年夫
女28	山本 澄子
女39	壇 ヨソ子
高2	石田 美佐子
高2	城戸 カメノ
高2	一力 貞子
高2	廣松 敏克
高2	西木 須矢子
高3	高木 邦介
高3	西山 彰
高4	西水 英晴
高10	西原 種重
高11	星野 公代
高13	松本 巖
高14	桜井 幸子
高20	岡 三徳
協賛 2 口	
中50	田辺 一彦
中53	中島 赳
高1	津村 きよみ
高6	藤丸 武
高7	浜野 弘子
高10	中島 哲夫
高22	松岡 正治
高31	廣松 法清

卒回	氏名
協賛 15 口	
高16	藤吉 憲生
協賛 5 口	
中46	下川 忠
中46	緒方 英治
中47	徳永 樹夫
中49	古賀 喜代次
併中2	榎本 行男
女41	森脇 つる子
高2	増田 則久
高2	津村 弘
高2	井上 和子
高5	中村 義行
高5	永江 秀作
高7	津留 利生
高9	都留 昇
高12	石塚 武美
高12	東 若芳
高13	澤田 恵美子
高16	花島 正司
高17	跡部 與志
高18	黒田 芳憲
高34	柳内 真理子
高35	小野 彰久
協賛 4.5 口	
高1	牧野 英美子
協賛 3 口	
高1	森 弘成

(1口 2,000円)

平成 15 年 10 月 31 日現在

東京に輝ける三稜の星たち

「東京同窓会」の歩み—その3—

副会長 松永 肅

私が伝習館東京同窓会のお手伝いを命じられて最初に開催された経緯、実態は前記のとおりでありました。

これが基準となり過去約30年に亘り開催されてきたこととなります。

ここで特記すべきことは、伝習館の川島欣一校長から東京同窓会の宮崎会長と立花副会長に宛てられた昭和49年10月4日付の一通の手紙についてであります。

それは、本校の2年生446名が教官15名に引率され、関西・関東・信州方面へ修学旅行の途になることになったのでよろしくとの要旨でありました。

謹啓 秋冷の候ますますご健勝の段、大慶に存じます。

さて、今般別紙の通り、本校第3学年生445名が教官15名の引率のもとに、関西・関東・信州方面へ修学旅行の途になることに相成りました。

修学旅行は申すまでもなく、教育の一環として学校の指導のもとに行われるべきものであり、そこには厳正な規律が要求されます。しかるに、本校の修学旅行は数年前より学校側の懸命な努力にもかかわらず、一般の造反勢力の影響が殊の外強く、異常な状態が続き、世間の批判の的となり、学校としても恥ずかしい思

二伸 ご挨拶に参上しますのは午后4時過ぎになると存じます。

以上の内容であり、修学旅行の日程表によると、昭和49年10月13日(日)～10月18日(金)迄の5泊6日の旅程で、奈良・京都を見学の後、10月15日(火)午前10時50分着の新幹線ひかり2号で上京、直ちに科学技術館・皇居・官庁街・神宫外苑などを見学し午後2時50分に宿泊先六本木の東京コマ旅行会館に到着、直ちに夕方までの自由見学とバス2台によるNHK見学に分かれて慌ただししい中ではありましたが、生徒達は東京見学を楽しんでやうであります。翌16日(水)午前7時に東京を出発し次の目的地の軽井沢・志賀高原へと元気に旅立ちました。

当日は、修学旅行の生徒を引率して来られた教頭の志藤修司、立石勝美、平川博隆、上田智孝の各先生が東京同窓会の宮崎駒吉会長、副会長の立花盛枝氏を訪問され、ホテルグランドパレスの23階ク라운レストランで歓待し、席上で、学校の近況につき詳細にわたり説明がなされ、偏向教育に対する学校側をはじめ、良識ある先生がたの凛とした姿勢と真剣な取組みに只々敬服するばかりでありました。この席には、東京同窓会の幹事役でもあった龍保健事務所社長で中学44回卒の古賀義利氏と私も同席させていただきました。学校の近況の詳細につきましては、昭和49年11月12日付のお礼状の文面に記載されておりますので、文

章は若干長くなりますが敢えて原文のまま、記載させていただきます。

謹啓 菊花薫る好時節、ますますご健勝の段大慶に存じます。

さて、先般修学旅行にて上京の際は種々ご歓待を忝なうし、ご芳情のほど厚く御礼申し上げます。早速御礼申し上げます。平にご容赦下さいますようお願いいたします。

修学旅行はあれから信州・名古屋を経て全員無事帰郷する事ができました。修学旅行は学校にとっては教育の一環として行う一大行事でございます。これが成功するか否かはその学校の平素の教育のあり方如何にかかっていると愚考いたしております。この意味において修学旅行は当該学校の教育の成果を問うよき機会であるとも言える存じます。

今回の2年生の修学旅行生についてみますに、その態度・規律の面においては他校生のそれに比較していささかも遜色がないりっぱであったと旅行案内に当たりました交通公社も申しております。引率教官としてもここ数年來の本校の修学旅行と比較しましても数段の進歩であると信じています。大多数の生徒は教師の指導に乗ってききましたし、校規違反が極めて少なかった点などにそれを見る事ができます。ここに、ようやく伝習館正常化の曙光が見えてきた感があります。しかし、子細に検討してみますと、少数ながら門限に遅れた者や2名の喫煙者を出すなど遺憾な点が無かつたわけではご

いをいたすことも多く、したがってまた、教育効果を十分に上げない憾みがございます。ここに深く省みて、真に修学の目的を達成する修学旅行を実施すべく、昨年度来学級担任教官を中心に修学旅行のあり方を抜本的に検討し、父兄会やホームルーム時等機会をとらえて正常化への努力を積み重ね、真剣にこの問題に取り組んで参りました。まだ一抹の不安はございますものの、今までよりはましな修学旅行が実施できるものと存じています。

信州方面へも参ります関係で東京にはごく短期間の滞在ではございますが、何かとお世話になることもあるかと存じますのでよろしくお願ひ申し上げます。なお、時間的余裕があれば、教頭はじめ2、3の教官が学校事情御報告かたがた御挨拶にグランドパレスまで参上いたす予定でございますので、ご事情が許せばよろしくご引見のほどお願ひ申し上げます。まずは取り急ぎ御通知とお願ひを申し上げます。

10月4日 敬白

福岡県立伝習館高等学校長 川島欣一

伝習館東京同窓会

宮崎駒吉殿
立花盛枝殿

ございません。今後、家庭とも密接な連絡をとり、平素の生徒の生活指導に一層の努力を傾け厳密な規律のもとに各種の行事が行われる学園にしたい所存でございます。規律の点のみならず、学業・スポーツの面においても天下の一流校とまではいかずとも、せめて他の悔りを受けないだけの成績をあげ、先輩諸氏のご期待に応えたいと念願している次第でございます。

こう申しても、学園の一部ことに上級生には紛争の余蘆がくすぶり、校舎の破壊事件や生徒の教師に対する集団的反抗事件なども起こっておりますが、その反面堅実な歩みを続けている者も多く、うれしいニュースもないわけでもございません。一例を申し上げますと、去る10月14日に実施されました全国規模の旺文社の実力考査の2年生の分についてみますに、全国受験校1、220校中、伝習館は133位、福岡県では52校中、6位となっております。個人では浜武和司君が全国134、063名中193位、福岡県6、154名中第1位となりました。

以上、ご芳志に対して厚く御礼申し上げますとともに、修学旅行の礼状並びに学校近況をご報告申し上げます。学校長からもくれぐれもよろしくとのことでございます。

末筆ながら時節がらご自愛專一になさいますよう祈り上げます。

11月12日

頓首

志藤修司

平川博隆

立石勝美

松永 肅様

追伸 早速お礼状を差し上げるよう立石が請負っていましたが、帰校後小生の母の危篤状態が続きまして、それに続いて死去などのため身辺殊の外多忙となりました。御礼が遅れ、申し訳ない結果と相成りました。何卒ご容赦下さいませ。(立石記)

宮崎、立花、永江氏にも同文のお礼状をさしあげました。金子君にもよろしく。

母校伝習館の先生方のご努力に加えて「伝習館を守る会」の趣旨に賛同し東京の同窓生から募金が寄せられて側面からの協力を惜しまなかったようであります。当時、東京の「みらく会」の33名からも、第1次の募金として、金1、077、000円を拠出した記憶があります。昭和40年代の後半から50年代にかけてこの時期、同窓生の母校に対する関心事は、学校紛争に絞られその解決への経緯を注意深く見守っていたのが実情でありましたので、今回は敢えて本件に絞って記述させていただきます。

柳川での

同窓会総会報告

母校だより

第53回 伝習館同窓会総会が平成15年10月12日(日曜日)午後1時30分柳川の「御花」で約750名の出席があり盛大に開催されました。

今回も江崎会長が出席されることになっておりましたが、急用のため私が代理出席させていただきました。

今回の同窓会の運営・進行は高校25回生が担当し整然と進行いたしました。

総会では例年どおり立花寛茂同窓会長の挨拶からはじまり、平成14年度の事業報告書と決算報告書が承認され、引き続き平成15年度の予算(案)が提出され審議の結果承認されました。次に資産の取崩しについて説明があり、平成16年は創立180周年に当たることから記念事業の経費に充てるため資産48、600、164円のうち25、000、000円(取崩し後資産額23、600、164円)を取崩したい旨の説明があり、支出内容は(概算)

1. 教室等空調設備設置費(確定額) 19,897,500円
2. 記念講演講師謝礼等 500,000円
3. 部活動全国大会等遠征基金、楽器購入、投球練習場新設等 4,602,500円

これも審議の結果承認されました。

今回の記念講演は「思い立ったら吉日私の挑戦」と題して青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリストの見城美枝子氏を講師に迎えて聞きごたえのある講演でありました。

夕方から会場を「御花」のガーデンに移し、懇親会が開催されましたが、宴もたけなわのころ、俄雨に祟られ、自然流

会の憂き目あい、心残りとなりました。

平成16年度 東京同窓会総会予告

隔年ごとの東京同窓会を下記の通り開催することになりました。

総会に講演を取り入れるようになって3回目、今回は2003年5月に世界最高年齢でエベレスト登頂を達成された有名なプロスキーヤー三浦雄一郎さんにご登壇願うことになりました。

会報発行により皆さん方の共通話題が増え、同窓会への関心が深まってきたように思われます。今回も郷土柳川のご協力を得て、郷土物産総当りなど賑々しく開催することにしていきますので、多数の会員皆様のご参加をお待ちしています。

日時：平成16年6月27日(日) 11:00—15:00

予定：11:00—12:00 特別講演 三浦雄一郎
「三浦ファミリーの挑戦」
12:00—12:30 ミニコンサート
コーラス
「コール・シオン：北原白秋と世界の歌めぐり」
12:30—13:00 総会
13:00—15:00 懇親会

会場：ホテル・グランドパレス2階
「ダイヤモンド・ルーム」

伝習館東京同窓会賛助金
振込票通信欄コメント

敬称略

東京同総会2号、ありがとうございますございました。内容もバラエティに富み、いっそう充実。レイアウトなど、洗練されています。編集長のセンスでしょうか。

中学 55回卒 金森隆茂

うっかりしておそくなり申訳ありません。

中学 46回卒 前原 弘

賛助金3口分として

高校 5回卒 大藪則子

お世話様でございます。よろしくお願ひ致します。

高校 5回卒 武田八重子

高校時代の思い出が昨日の事のように思われた一日でした。ありがとうございました。ございました。

高校 14回卒 桜井幸子

同総会会報懐かしく拝見させていただきました。テニス物語では亡き兄(許斐 修)の元氣な顔が見られました。次号を楽しみにしています。

中学 53回卒 中島 昶

中53 中島 昶、女46 中島智恵子は夫婦ですので、妻の方は送り物は不要で結構です。一人分にして下さい。

中学 56回卒 成清良孝

高女 28回卒 山本澄子

会報ありがとうございます。

北原白秋、壇 一雄さんたちのご生家はすぐ4、5軒先にあります。主人は山本 汎です。

高女 16回卒 梶島正司

第2号興味深いページが多く一気に読みました。編集委員の皆様有り難うございました。

中学 47回卒 徳永樹夫

封筒の宛て名書きにあるジェイティ不動産(株)は平成7年に退社いたしましたので訂正をお願いします。

中学 50回卒 田辺一彦

高女45 田辺ミツエ(85005200)への会誌郵送は無用にしてください。賛助金2口分送ります。

(一彦・ミツエ)

高校 23回卒 坂本智臣

7月から塩釜勤務(仙台の近く)幹事会の出席は無理かと思います。仙台から近況を送りたいと考えています。

高校 2回卒 廣松敏克

東京同総会第2号、楽しく、なつかしく拝見いたしました。第3号も期待しております。

高女 11回卒 城島孝雄

遅くなりましたが少額ですが送らせていただきます。同総会報有難うございました。

高校 11回卒 興田広巳

高女11回(昭和35年)卒の興田と申します。なつかしく拝読させていただきます。

高校 18回卒 吉田シヅカ(原田)

いつのまにか定年まで数年になつてしまいました。嫁いで32年になりますが夏の高校野球が始まると新聞のスポーツ欄が気になるところでです。

中学 55回卒 古賀昭夫

創刊号、第2号とご送付有り難う御座いました。昭和38年九州を離れ、北海道・東京と渡り歩いたものとして大変懐かしいものです。

高女 5回卒 野口幹彦

住所表示が昨年より下記の様に変更になっておりますので、ごめんどろですが訂正をお願いします。

高女 8回卒 川崎悦子

2号楽しく読ませていただきました。役員の方々お世話様です。これからも柳川のテニス等お伝え下さい。

高女 3回卒 塚田時子

幹事の皆さんお世話さまです。会報(1・2号)隅から隅まで興味深く拝読させて頂いています。賛助金遅れて申し訳ございません。

高女 21回卒 柿野貴美子

遅くなりまして申し訳ありません。

高女 7回卒 津留利生

大変遅くなり申し訳ありません。

高女 4回卒 西水英晴

高女 21回卒 中村義行

伝習館東京同総会会報第2号をご送付いただき有難うございます。

高女 5回卒 中村義行

「東京同総会」「ふくの会」(高5回卒)の今後の益々の発展と会員各位の益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。

高女 46回卒 藤吉智子

会費納入が遅くなって申し訳ございません。

高女 17回卒 跡部與志

伝高17回卒 お世話になります。

高女 17回卒 跡部與志

伝高17回卒 お世話になります。

業、8月下旬へ転居いたしました。

併中 2回卒 塚本行男

名簿が二重になっています。

高併002 8500003720

高 003 850008030

高女 10回卒 西原種重

遅くなり申し訳ありません。

妻(旧姓高田征子)は綿貫様と窓とのこと、一度個展を見に行きたいと思っています。

東京同総会の更なる発展をお祈り申し上げます。

高女 7回卒 津留利生

高7津留利生、高8津留(旧姓内田)京子の分、少額ですが各々半分づつの協賛とさせていただきます。なおの今後、会報の送付は夫OR婦どちらかに一部で結構です。

高女 17回卒 跡部與志

伝高17回卒 お世話になります。

高女 17回卒 跡部與志

伝高17回卒 お世話になります。

高女 17回卒 跡部與志

伝高17回卒 お世話になります。

高女 17回卒 跡部與志

伝高17回卒 お世話になります。

高校 35回卒 小野彰久

伝習館高等学校第35回卒の小野彰久とその妻知子です。同級生夫婦なので今後会報の送付は一部で結構です。海外赴任の為8/9にドイツフランクフルトに向けて家族全員で出国します。出国するに際し賛助金の前納のつもりでここに払込みいたします。会報は下記住所に転送いただければ、柳川の実家に転送されますが、念のため実家の住所を記します。福岡県柳川市本町29-1 小野祐嗣 気付

小野彰久

高校 5回卒 永江秀作

「伝習館東京同窓会会報第2号」を御恵投下さいまして誠にありがとうございました。記事内容が非常に興味深く読ませていただきました。今後共ますますの御精進をはるか郷里からお祈り申し上げます。末筆乍ら松永副会長様へ御鳳声下さいますようお願い申し上げます。 敬具

高校 20回卒 石井ヤス子

お世話様でございます。会報楽しみにしております。

高校 回卒 福島たか子

中身の充実した同窓会々報楽しく拝読致しました。会の益々のご発展と継続を心から祈っております。遅くなりましたが会費お送り致します。

高校 20回卒 岡 三徳

今夏は終戦の年に教員養成科を卒業した母の初盆に帰省し、久しぶりに柳川の街を歩き、母校を訪ねる機会となりました。

同窓会報をお送りいただき、ありがとうございます。

高校 11回卒 大坪ミドリ

お世話様です。おそくなり申し訳ありません。

高校 13回卒 澤田恵美子

山形まで会報を送っていただき有りがとうございます。いつも懐かしく読ませていただいています。賛助金おくりまして申し訳ございません。

高校 5回卒 松尾久子

いつも楽しみに拝見させて頂きませぬ。会費おそくなりすみません。

高校 3回卒 高木邦介

想い出いっぱい伝習館東京同窓会々報、編集に携わる役員の方々に心から感謝しております。次号を楽しみに待っております。

高校 1回卒 森 弘成

東京同窓会の賛助金としてお送りします。同会の活性化に期待しております。よろしくお祈りします。

高校 19回卒 森田達雄

ページをめくるごとに伝習館の歴史を実体験するが如し気分です。編集ご苦労様です。

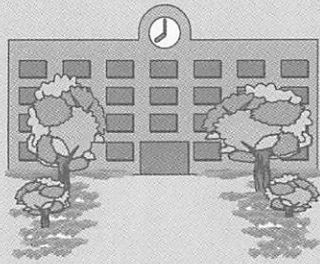
高校 7回卒 浜野弘子

東京同窓会報創刊号なつかしく嬉しくなんでも拝読いたしました。この用紙をどこかにまきれこませてしまいい大変おそくなつてしまい申し訳なくおもっております。恥ずかしい限りです。(絵を書いて中央展に出したり、グループ展をしたり忙しくしております)

高校 7回卒 浜野弘子

第2号の会報お送りいただき有り難うございました。なつかしく拝読いたしました。どの記事も楽しく読ませて頂きました。同期の田中敬之助さんの記事や特に成清良孝様の廣松渉と宮川武寿・龍昇吉その人間関係の土壌一層興味深く拝読いたしました。

涉さんは私の親の本家でもあり遠縁にあたり妹の流美さんと同級生です。



伝習館東京同窓会決算収支報告書

平成14年11月6日から平成15年9月30日まで

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
特別賛助金		会報製作費用一式	1,890,000
江口三千雄	1,000,000	(1・2号分)	
松田 含	300,000	会報送料一式	698,475
		(1・2号分)	
普通賛助金	2,442,000	会員名簿入力費用	50,715
広告賛助金	40,000	ホームページ作成費用	62,420
		郵便振替申込料他通信費	36,970
		学年幹事会会議費補助(4回)	100,875
		仮払金(編集通信費)	50,000
		郵便振込手数料	32,890
当期収入	3,782,000	当期支出	2,922,345
前月繰越金	348,545	次月繰越金	1,208,200
計	4,130,545	計	4,130,545

繰越預金残高 438,500
繰越現金残高 769,700

注：特別賛助金江口三千雄氏からの1,500,000円、松田含氏の500,000円、合計2,000,000円のうち700,000円については前期の費用として支出しております。
注：第3号発行、發送予算1,100,000円支出見込につき、更に賛助金のご協力をお願いします。

ホームページへの 来信紹介

質問内容は以下の通り

Q1「家族構成を教えてください。」

Q2「どういとお仕事ですか（でした）か？」

「苦勞された点は？又、どんな処に
充実感を感じますか？」

Q3「お住まいはどちらですか？近所にお
薦めのところはどこですか？」

Q4「柳川を離れてどれ位ですか？その当
時の心境を思い出して？」

Q5「現役の生徒に対してのアドバイス
（苦言）がありますか？」

Q6「その他（マイブーム等）」

回答の御紹介です。

一木亮之介（昭和56卒）さん

山口様へ

メールありがとうございます

登録していただきありがとうございます

アンケートに答えさせていただきます

A1 嫁一人 息子小5 小3の二人の
4人家族です。

A2 一部上場の設備工事会社（通称サ
ブコン）に勤めております。今、
工事部の副部長として、部下の現
場を統括管理しております。自分
でやればあ！とつい口にしたくな
ることが多い毎日です。

A3 神奈川県川崎市麻生区です。
小田急線沿線です。

A4 大学卒業後、満18年がすぎ19年日
です。

使用前「一旗揚げげせ
使用後「福岡に転動したいなあ

A5 今、楽あれば苦あり、今苦あれば
のち楽あり。

A6 6年前、マイホーム買っちゃいま
した。

転勤の晩には人に貸せるように、
駅徒歩4分です。

近所にバーベキューも可能なきれ
いな公園が出来て近所さんと
時々ワイワイ楽しんでます。

ありがとうございます。

古田沢子（50年卒）さん

A1 夫、息子二人の4人です。

A2 助産師です。

資格をとって、ただひたすら助産
と看護の道を歩んできました。医
学の進歩は、ウイルス対策ソフト
と同じように、その都度アップデ
イトしないと役に立ちません。

少々物覚えの悪くなった脳を必
死で鍛えながらみんなについて行
っています。

充実感は、元気に赤ちゃんが生ま
れたとき「やったー」といつも
感動します。

少子高齢化の波紋が当科でも広が
り、内科の患者さんもみさせてい
ただいていますが、元気で退院し
ていただくとうれしい。

A3 福岡市です。

A4 28年？

高校を卒業してすぐ寮生活。
県内なのにさみしかったな。

実習はつらく、あるときは楽しい
ものでした。

A5 健康が一番。まずは食生活です。
いざというとき少々の無理が効き
ます。

いつもご飯を作ってくれるご家族

に感謝しましょう。

A6 去年、同じ系列の病院の研修が
あり参加しました。グループ討議
の最中に話の流れからその中の
一人が、ナ、ナ、ナント小学校、
中学校、高校が同じで7年先輩と
分かりお互いびっくり。早速、同
窓会誌で探すと名前がありました。
た。そうやって気をつけて周りを
探すと、同じ建物の中にもいまし
たよ。同郷ってだけで、たかが県
内でも懐かしいという感じがしま
す。東京とか遠く離れているとそ
の思いは大きいだろうなあと思
感。

石橋（11回卒）さん

A1 夫婦、子供2人の4人家族

A2 電気メーカー勤務（1年半前定年
退職）。開発的要素の多い業務で
比較的面白く、また、海外勤務・
出張等で海外での生活を経験でき
たこと。他方、技術屋の割には
比較的転勤が多く、家族にはかな
りの負担をかけたと思います。現
在、コンサルタントおよび東京都
技術専門校非常勤講師を2日程
度/週継続中。

A3 神奈川県相模原市橋本在住。

A4 山、湖が近くに多く、春の桜から
冬景色まで四季それぞれを楽しめ
る。城山湖（かたくりの花で最近
有名、津久井湖、相模湖、宮が瀬
湖・ダム（クリスマスツリーが有
名）がある。

A5 その（年）ときにしかやれない
事はぜひそのときに実行する。

会社等で時々話す例えば話「出張
先へ行ったらその近くをついでに
見てくると楽しい出張になります
よ！多分もう一度同じところに出
かけるようなチャンスはないか
ら。ただし、会社のルールには反
しない範囲で：」

榎本隆治（8回卒）さん

A1 4人家族（長男、長女）

A2 多種多様ですが航空機整備作業が
主です。

A3 現在、山形県天童市内です。（定
年退職しましたので）40年間横浜
在住でした。

A4 約40年です。今思う事は飛行機の
仕事をする事は夢でした。又、大
都会での生活も夢でした。今は第
二の人生として建設業に従事して
いますが楽しくやっております。

A5 一、夢を持ってその夢を実現する
ように努力せよ!! 二、自分の考
え方、生き方をしっかり持てる人
間になる事。又、意見をしっかりと
言える事。三、挨拶がしっかりと出
来て、マナーが身につけている人
になって下さい。

A6 ゆつたりした人生を送りたい。

星野公代（35年卒）さん

A1 子供と二人暮らしです

A2 現在会社の経理をしています。

A3 市川市の行徳に住んでいます。御
陵鴨園が近くにありますが

A4 44年たちました

A5 若い人たちと余り触れ合う機会が
ありませんので
ありがとうございます。

徳永雄三（昭和35年卒）さん

A1 犬2匹と私ら夫婦と義母で5人で
す。

A2 サラリーマン稼業を辞めて、転職
コンサルタント（ヘッドハンター）
20年やっています。仕事の成就時、
達成感を十分に味わえます。

A3 東京都杉並区です。神田川沿いを
井の頭公園まで、川沿いの道。

A4 44年目、皆んな痩せていて、ひも
じかつたし、着たきり雀め、下駄
で通学してた、河は汚なかつた、
掘り干しが廃れてきたけんね
本吉屋のうなぎ飯食わなかつた、
銀京というスーパがハイカラ
で、柳映は二階が畳の映画劇場黒
澤映画の虜になった。

A5 仕事柄覚えた事。高校時に戦略あ
る職業観を持ち、目標に努力し手
に入れた人には脱帽します。

自分の好きな事をやりながら生活
できる、人生最高でしょう。そん
な人になれたら如何ですか？

高校で生産性ある職業観を持って
す。先生も活きた社会勉強を教え
て欲しいです。

A6 私は62歳、人生健康が第一と考え
ています。生活習慣病とかには縁の
ない自営生活者です。昨年は山登
り22回、ブル151回、ゴルフ
43回、映画36回、読書マンガ雑誌
ハードカバー多数。遊ぶ時間は、
なんやかんや作れるもんですよ。
草々

下吹越智佳子（旧姓、横山）（17回卒）さん

メリリングリストにご参加ください。近
況を添えて densyukan17@freeml.com ま
でメール下さい。

ここ、ニュージーランドに暮らし始めて、かれこれ3年が過ぎようとしています。私の住んでいるオークランドは福岡とは姉妹都市で、街のサイゾも雰囲気もよく似ているし、治安もいいし、海も近いし、ちょっと車を走らせれば、山もあるし、てきとーに田舎で、てきとーに都会です。

私がニュージーランドで好きなことの中に「サマータイム」の導入があります。今現在サマータイムなのですが、今は夜の8時、そして真夏の1がつあたりでは場所によっては、9時から10時近くまで明るく、夕方5時に仕事を終わり、家族でゴルフに出かけたり、ビーチにいったりと週末でなくとも WEEKDAY でも楽しむことが一杯です。

特に真夏の時期になると毎週末ごとにあちこちで無料のイベントも目白押しで、お金をかけずに家族で楽しめるものがたくさんあります。

この国にきて最初にびつくりしたことのもので、車の免許があります。

私が来た8年前のニュージーランドは、日本のような写真付の運転免許証ではなく、ただの紙切れに名前が書いてあり、しかも一生更新しなくていいというものでした!! (↑すごすぎる、誰が使ってもばれない!)

最近になってやっと日本のような写真付の免許証になりました。

私もこちらで免許をとったのですが、最初っから次の更新は10年後。15歳でとって、10年たてば人相もかわるよな!と思うのはわたしだけでしょいか? (こちらでは15歳から車の免許がとれます) 免許といえば、船を操縦(運転?) するのに免許がいりません。日本ではモーターボートを運転するのに「船舶4級」とかいらすよね。この国、いらんんです!! びつくりした。人数が少ないからそれでもいいのでしょうか? というわけで、私もひとのボート運転してみました。まあ、簡単といえば簡単なのですがいいのかなあ???

こちらに来て始めたことの中に魚釣りがあります。「タイしかないのか?」と思うぐらい釣りに行ったら、タイがつれます。

そして、それを刺身にせずにフィッシュ&チップスへ: ああ、もったいない。

君たちニュージーランド人には刺身という「わびさび」がわからないのか? : 「醤油の味しかない」といわれかえす言葉がなかった私。

あああ、きつときつと刺身のような繊細な味は私たち日本人にしかわからないのね?

とおもってしまう、わたし。
そのわりは日本食は人気であちこちにすしショップはあります。

実はニュージーランドでは日本語教育がさかんです。親日家も多いので、かなりすこしやすいいところ。

永住権をとって2年半、今ここのニュージーランドは私の第2の故郷になりました。多分、今後ここに住み、ニュージーランドに根付くことになりますが、日本と同じくらい、もしかしたら日本以上に住みやすい場所をみつけた私は本当に幸運のなんじゃないのかな、と思う今日この頃です。

ニュージーから山下恵子 (35回)



先輩・後輩より

入学のころ

入学式のこととはよく覚えていないわねえ。小学六年生は、大正十五年で大正天皇が十二月に崩御でしょう。昭和元年が数日で、お正月はもう昭和二年なのよ。二月は大葬の礼があり、三月が卒業式で四月に入学。二月生れの私は十二歳になったばかり、両開小学校からは、四人が女学校へ進学したの。昭和になって初めての柳河高等女学校入学組だったわね。

三クラスあって、一クラス五〇名ぐらい。卒業までの四年間クラス替えがなかったたので、各クラスの色合いがはっきりしてきてね、元気者のクラス、おとなしいクラス、個性的な人の多いクラス、というふうだね。私の二組はおとなしいクラスよ。授業料月に五円、修学旅行積立金も含まれていたと思うけど。

昭和初期の柳河高女物語

(聞き書き)

高女 31 回卒

跡部(古賀)愛子 (88 歳)

制服のこと

昭和二年の入学組は、紺色のセーラー服にひだスカート、黒い木綿のストッキングに黒い皮のひも靴よ。セーラー服のリボンが紺色で、衿は替え衿の白木綿のカバーをホックでとめて、汚れたら洗濯出来る様になっていたの。

上級生の制服は、上着は着物で衿を合わせて、袖は元禄袖。下はスカートという和洋折衷の旧制服のままで……だから一目で上級生とわかるのよ。大正から昭和への移り変わりを反映していたのでしようね。

靴はみんなそれぞれ足の型をとって誂えたの。四年間履くために、大きめに作るから、一年生のときはブカブカだったのよ。

夏の制服は、薄い水色のセーラー服。帽子ではなくて、日傘でね。色は黒と決まっていたのよ。何だか暑い感じがしたけど、今では紫外線防止には黒が良いといわれているので、先取りってところかしらね。

勉強のこと

学科で、今と異なっている科目は「作文」「裁縫」「お作法」「家事」の時間かしら。家事はオーブンなどまだ学校になかった頃でね、七輪（覚えてる？）に火を起こして、フライパンでホットケーキ

や、アップルパイを作ったものよ。お作法の時間は、お茶の出し方、座布団のすめ方など教わったりしてね。お作法室は和室でしょう。座るとかかとか見えるのよ。その頃のストッキングはすぐ破れるのよ。元氣者の大和町のTさんは、破れたかかとか墨を塗っていたという武勇伝もあつたりして、女学校ならではの話でしょう。

寄宿舎のこと

寄宿舎は昭和三年頃まであつたかしら。県立伝習館高校になってからの南校舎の西側の奥の方に（現在の柳川市役所の北西のところ）、横に長い二階建ての宿舎で、舎監の先生もいらっしやって、小公女の世界？ 八女郡の福島や大牟田からの入学者があつたので必要だったのね。私たち以降は遠距離入学者が少なくなって廃止になったから、寄宿舎最後の女学生ってわけね。

お昼休みのことなど

みんな、お弁当持参なの。冬は教室のそばの廊下にお弁当を暖める所があつて、よく匂いが充満してねえ。たくわんの暖まった匂いなどで大変だったけど。

ある時から、梅花堂越山がクリームパンとあんぱんの注文をとって、お昼に配達する様になったの。（あんぱん五銭）売店が講堂兼音楽室へ行く階段の下に

あつてね。食べ物置いてなかったけど文具や靴下や上履きなどを売っていたわ。それと、当時小使の室の横で繁盛していたのが靴の修理出張店よ。歩くことの多い時代でしょう。靴のかかとかすぐ減るのよ。一足の靴で高女の四年間をもたせるのだから、みんな大切に修理に出して履くの。その靴屋さん、今も柳川にあるのではないかしら……。

当時、お小遣いとして50銭貫つて家をするのね。なくなったら又50銭というふうだね。今のお金でいうと2500円位かね。通学はおよそ一里（約4キロ）の道のりで、帰りはいつも午後の三時か四時頃だから、猛烈にお腹がすくの。お行儀悪いけど、沖の端の串団子屋さんで、こっそり1本2銭のくしだんごを買って、やつぱり人目があるから田圃道を食べながら帰るのね。夕方、女学生が人通りのない田圃道を一人で帰っていても、物騒なこともなく平和な時代だったのね。

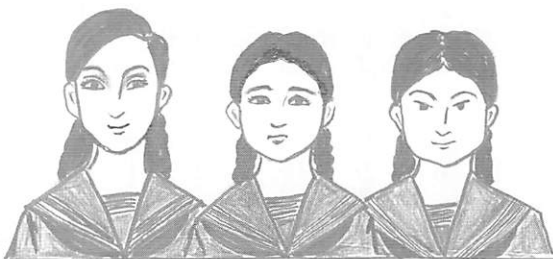
夏休みの海水浴合宿

土用の波の前に、希望者だけ一週間程度のサマースクールがあつてね、福岡の前原や唐津などの海へ行ったの。七ツ釜や、ある年は幕末の女志士、大田垣蓮月尼さんが幽閉されていた島へも行ったわ。近松門左衛門のお墓にも行った覚えがあるので、海水浴と社会見学の意味もあつたでしょう。とっても楽しかったわ。今考えると、先生方は引率で大変だ

つたでしようね。

修学旅行のこと

たしか十月か十一月の初め頃、船で関西方面へ行ったのよ。集合場所は国道橋で、そこから軌道車で矢部川駅（瀬高駅）まで行って、汽車で門司港までね。それからバイカル丸という一万トンの客船の三等船室で、神戸港か、大阪港へ向かったの。このところが少し記憶があやふやなんだけど……でも、三等船室がとても寒くって、付き添いの裁縫の木下先生が、新聞紙を下に敷いて寝ると、少しは暖かくなると仰つたので、みんなその様にして一泊したのはよく覚えてい



よ。

船を降りると、京都の桃山御陵（明治天皇・昭憲皇太后御陵）参拝、三十三間堂で沢山の仏様を見て驚き、泊まったのは大阪だったと思う：というのは道頓堀の灯を見て、みんなで歓声をあげたのを覚えているから。当時「赤い灯青い灯道頓堀の……」の歌が流行していて、みんなが知っていたのよ。でもやっぱり京都にも泊まった様な気がする……。

次の奈良では、興福寺、春日大社にお参りし、鹿を見て、翌朝霜が降りたのね。九州より寒かったと、両親（古賀歌郎、中6卒、トシ（旧緒方）高女5卒）に話したのを覚えているわ。

伊勢神宮には伝習館出身の方が居られて、普通は行けない内宮まで通して頂き参拝し、汽車で下り、安芸の宮島にも参拝して、矢部川まで帰ったのね。

これが修学旅行の全行程よ。なんだかお参りばかりしていた様ね。車中で一泊したかどうかが記憶にないので、どなたかに教えて頂きたいけど。

下級生の頃、上級生の内山（旧姓西原）春枝さん（高女28回卒）から修学旅行のお土産を頂いたことなど、懐かしい思い出がいっぱいね。

北原白秋さん来訪のこと

白秋さんは「伝習館には行かん！」と仰って高女の方を訪問されたのね。自分で作詞された高女校風振興歌「水の郷」のご披露もあったりして大歓迎だった

の。その時、来賓として立花家から御後室様（田安家）つや子奥様（徳川家）がおいでになったの。宮川チモト様もおいでになってね。今、ご健在の立花文子様は、東京にいらっしやっついていて、私達の女学校在学中には、たしか一度だけおいで下さったと思うけど……。

旧制中学伝習館のこと

三稜の徽章のついた黒い丸い帽子に、黒いマントを翻して闊歩する伝習館の生徒は、なかなかのものだったわよ。後に伝習館高校の水泳部監督もされていた緒方勇雄先生（中35回卒）の伝習館生徒時代は「紅顔の美少年」そのものだったもの。弟の廉ちゃん（古賀廉造、中42回卒）も、黒マントに朴齒の高下駄で柳川を闊歩していたね。（中36回山崎年夫様、中42回堀慶二様に当時の服装等確認）中には、女学生を追い回す不良生徒もいたわね。名前を覚えているけど、言わない！

卒業のこと

高女31回、昭和六年三月卒。研究科というのがある、月謝五円、希望者は誰でも何年でも在学しているの。私も研究科に進んでね。北島ミチちゃん、甲木ヨシ子さん（旧姓江崎・江崎正直東京同窓会々長の叔母さま）、西山（戸次）キヨさん、北本（野田）フキ子シヤンの仲良しばかりでそれはそれは楽しかったこ

と。勉強は国語、候文の書き方、刺しゅう、絞り染め、編み物などだったわ。いろんな面で自由だったので、途中寄り道してそのまんま北島ミチちゃん宅に留まったりしてね。その後、私は東京高等女子学園に遊学してしまっただけだね。

高女暴動（大げさ？）のこと

忘れるところだったわ。当時としては大事件よ。三年生の時、次席（今の教頭先生？）の城戸先生の転任に反対運動が起きたのよ。全校生徒に絶大な人気と信頼を得ておられた城戸先生の転出を阻止しようと、全学年のクラス集会までしたの。授業ボイコットまで行ったかどうかは、忘れてるんだけど、とにかく大

騒ぎだったのね。でも結局、転任は大牟田高女の校長先生へのご栄転だったので、しぶしぶ学校側の説得に応じたの。後任の先生が大変よね。

でも、新任の小林繁樹校長が偉い方で一気に高女生の心を掌握されたんだから……。それは『女学生は言葉で言うよりも視覚にうったえた方がよく理解する』と、今まで禁止だった映画鑑賞をすすめられたの。その肝心の映画の題名が思い出せないのよ。やはり年をとり過ぎましたね。残念でした。

記憶違いなどあるかも：お気付きになった方教えて下さいませ。

文責／高10回卒 永倉（跡部）素子

—終—

『伝習館記念誌 平成6年刊』より

- 昭和2年4月
- 昭和3年7月
- 昭和5年10月
- 昭和6年3月
- 昭和8年4月
- 昭和9年6月
- 昭和10年11月

研究科授業開始（修業年限一ヶ年、定員三十人）
 家庭科及び受験科に分く。
 北原白秋講演。
 創立30周年記念大博覧会開催。（自分達が作った着物等展示した。）
 校風振興歌（2月11日成）制定発行。（白秋さん来訪）
 運動場拡張（千七百坪）
 南校舎一棟改築
 講堂、記念館、同窓会館新築。

以下略

トシを重ねるほど 懐しい 青春時代の思い出… よかやっかんも (その2)

高伝1回卒 横山二三男

ドロボーに入りますよ。
なんて威し文句をつけながら重い引き戸を開けても部屋中に人の気配はない。
どの家庭も戸締りをしていない。
防犯キーのいらぬ平和な町、沖之端で私は生まれ育った。

父は矢留尋常小学校で北原白秋と同級生だったそうだ。私はその小学校生のころ、大城病院の大先生の助手として定期検診に来ていた。広い講堂で予防注射や疱疹など。

生徒たちは二列に並んで順番を待つ。
なぜか父の前は長蛇の列、人望と実力と人気を一人占めにした感じだった。
わずかに50世帯弱という小漁村の北町という部落は筑後川が有明海へ注ぐ入江で、漁港には沢山の木造船が係留されていて(写真)、出船、入船で年中活気づいていた。

潮の干満の差がはげしい海で引潮の時は干潟の上でむつごろうたちがピョンピョン跳ねているかと思うと、満潮時には船がコンクリートの防波堤の高さまで上

がり、縁側から目線と一直線になるほど迫ってきたもんだ。

早朝の出漁となると一斉に焼き玉エンジンがうなる。排気ガスが空に舞い爆音は天をとどろかす。

ト口箱に満載した魚介類をガラガ車に乗せて市場の競りへと走る。一方では煮上げたあさり貝の実を缶詰工場へ運ぶ。

海辺は大騒音が入り乱れ、耳が割れそうになる。慣れない人だと気が狂いそうになる雑音でもわれら土着の人間たちにはその雑音が気安めになる子守唄のように響くから不思議だった。

「明日は南風で和ぎバイ」
政市は海辺でひとり呟いた。

夕日が沈むころになるときまつてわが家の裏に佇む。初老の海の男、政市の胸にはいつも鼻汁たらした孫が抱かれていた。

西の空を食い入るように眺めてひと息入れる。その静かな佇いのあと、この天下一品の予言が飛び出すのだ。

ピタリと当る。
ハズレたためしはない。

気象衛星のデータをベースにした予報士たちの天気予報より政市の靈感予報の方が的中率はるかに高かったような気がする。

かりに、政市が漠然と、
「明日は時化バイ」
と予言を吐いたら、海は荒れる。

粗野で原始的な生活のなかで積年の体験がものを云う。メカに頼る現代人より経験をもとにした超能力を見せつける昔の人がスゴイと思うな。

その魔力は近代科学でも解明できそうにもない。

柳川は城下町

私たち漁村の者たちは城内(しろうち)の人たちを御家中の人と敬稱したもんだ。

その城内町の人たちは漁民を指差して、
ロッキュー

と、侮蔑しては異人種扱いにした。

「横山はロッキューじゃけんいう…」
と人種差別の言葉が耳にするとムカついた。貝ガラ臭か海辺の人間じゃと蔑視された。

Stinks is awful

ホントに町中くさかった。

ミロツゲ(赤貝)・あさり貝・マテ貝・ケツ(ミニホラ貝)・うじがき(牡蠣)・メカジャ・うば貝・平貝・しやっぱ(しゃこ)・海茸などの残骸が散乱し、一種独特の異臭を放っていた。

衛生管理も適切でなかったろう？ トラホーム患者の数が日本一と云われるくらいにくさかあ町にちがいない。

ロッキューとは『六騎』の訛りである。

昔、源平合戦のファイナルを飾る壇の浦の戦(一一八五)で源氏方に完敗した平氏の落人六騎が柳川の漁港沖の端へ流れ着いたという話。奢る平氏も負けて良かった。ラッキューな六名は豊かな風土に恵まれ、快適な生活を送ったにちがいない。

寿永年間、すなわち安徳天皇治政下の日本人の姓名はホント長つたらしくて憶えずらい。ちなみに彼等の実名を紹介し

てみよう。

隊長は、難波 善長平益信であとは

是永 多七平政直

加藤 藤内平政勝

浦川 天ヶ左衛門平高矩

鳴神 藤助平親英

若宮 平七平清貞

以上が私たちの先祖。その末裔たちは現代までの800年間を仲むつまじく平穏無事に生き続けている。

南方民族へは海の幸、山の幸が恵まれ、陽気な個性が育まれてゆく。

政市の隣に徳市が住んでいた。その隣が座頭市だったか定かでない。

徳市は筋骨隆々、赤銅色の肌は典型的な海の男の風貌で、荒れる気性のシーメンたちの仲介役だった。

腕つぶしが強く、重量上げのチャンピ



いまはプラスチック製の高速艇ばかり 平 13.10

オンでもあり、祝祭日の宴席での謡曲のリードはプロ級だった。

妻の美佐江さんとの間に13人の子を創造した絶倫男でもあった。

当時の戦力増強のための国策スローガンだった。『産めよ増やせよ』に便乗した快男子である。

「ねえ、おつかさん、美佐江さんの背中の子はこの前の子とちがうよ」

私はよく母に聞いた。

助産婦歴50年の母は近隣の子ら数千人を「取り上げ」た有名な人で、事情通なのにこの子供の素朴な質問にただ首を捻るだけで答えようとしなかった。

美佐江さんは働きの者、寝る間も惜しんで家事その他に精出していた。

汲水場は柳川のいたる所にあつた。食器衣類の洗い場であり女の社交場にもなつていた。井戸端と同様、美佐江さんはこの共同洗い場でハンパでない洗濯物をかかえ、一日中ゴシゴシ洗濯板で手洗している光景を目にしたもんだ。

が、美佐江さんの背中におんぶしている子供の顔がその都度変わるのにはホントびっくりした。

一ダースは安くなる。

小説を地でゆくお二人の合体は一体いつ、どこで、どうして？ とスケベに芽生えはじめた心を揺り動かした。

雑魚寝の狭い部屋でか、それとも沖へ出て艦の下の船倉でか？ とクダらぬ思いをめぐらしたのもこのころだった。

瀬戸際（軒と軒の連なる狭い通路）の多い宗信町を抜けて堀割に沿って鬼童小路へ出る。

県立中学伝習館への通学路は四季ごも実に多彩だった。私の一年後輩だった江口国彦君がいつも一緒、片道40分の徒歩通学は柳川の風物詩を満喫した。

途中にはヘソクリ山（城址）があり不良学生たちの溜まり場化してたし、サンノサン（日吉神社）の境内で草野球したり、生け垣に囲まれた分限者（カネ持ち）の広い庭には果実があふれるように実る。あばつきらんごつ。

ミカンや柿や胡頹子や柘榴やどんぐりや椎の実など。

手当たり次第に黙っていたらいた。

後輩がエスカ（恐い）と静止するのを無視して私は見知らぬ人の家の庭の柿の木に登った。大樹のてっぺんまでスルスルト。

その途端に私は家主に発見されてしまった。悪事はすぐにバレるもの。

「このクソ坊主めが！」

親父さんは怒号とともに怒り狂った。

大樹の幹を強引に揺さぶられ、私の小さな体はもんどりうって地面にたたきめされた。急降下墜落である。

足腰がまともに立てないほど肉体の損傷をきたしたうえに、親父さんからはキツい灸をすえられた。

「そんなに食べたいなら、ぐださい」と断つてから登りなハレ」とは、いもつとも。

秋が深まると伝習館の運動会だ。

私は走ることに、駆けつことが大の苦手だった。それを知ってるクラスメイトたちは面白半分そして意地悪にも投票で私を

1500メートル、長距離の代表選手に選出して喜んだ。

同僚の悪ふざけに対して私なりの反抗も徹底的にやったつもりだ。まず、スタート前、一緒に走る18選手に向かつて、「ヨかか！ よう聞いとけ、

俺と最後まで調子合わせて走ってくれよ！ 並んで走らんとみたむななかケン、ヨカね」

「うん、まかしとけ、横山、そげん心配せんでヨカ」

「わかったよ」

「そげんすつタイ」

「スローペースでゆこう！」

みんな気持ち良く私の懇願にOKしてくれた。スタートラインにつく。ようらい！

パーン

割れるような号砲で一同はサツと飛び出した。が、である。走者のことごとくが私と交わした男と男の固い約束を破つて、みるみる私を引き離しながらトラックを周回するではないか？

この野郎めがあゝ

口に泡ふいて追いかけるがその差は開くばかり、私は見物客や来賓たち笑いの渦の中でゴールイン。

情けない結末、でもそんなことでくじける私じゃない。最終走者を讃える拍手が鳴り止まなかった。

運動会のメーンは白兵戦。

校庭奥に構築された仮想敵車トーチカへ向かつて総攻撃をしかける。上級生の兵隊たちが空砲の三八騎兵銃を射ちならし、発煙筒をたき、爆竹を鳴らし、鉄条網を切断しながら勇猛な突進を試みる。空には模擬の軽飛行機が飛び交う。

Go for broke!

当たって砕けるの大和魂が客ウケしたもんだ。が、私の実兄、横山三男は肩にかついだ銃の重さに耐え切れずヨタヨタしながら、いつもドン尻で突進して行った。その哀れな姿が実に滑稽で姉の笑い



この紋所が目に入らぬか？ 後輩の坂田芳明君と（平 15.10.10）

種にされていた。

カッコいい上級生にくらべ下級生たちは来る日も来る日も、オイチニー・オイチニーの分列行進の練習ばかりやっていた。単調でクソ面白くない訓練にダレていた。

小枝にとまる小蟬までが、ズク、ズク・イーシー！とわめき散らす。

下級生たちの服装のオソマツだったこと。

スフという人絹で作られたウンコ色の国防服の上下、ズボンにゲートル巻いて地下足袋はいている。

どうみてもコンノガセ（農繁期のお手伝い）の少年風でダサイ。

教官はトッコス。名譽ある仇名だ。

この若者は泣く子も黙る四八部隊と云われた勇猛の久留米師団から伝習館へ配属された現役バリバリの中尉だった。

トッコスとはとんがり頭という方言。頭部の構造が上にゆくほど三角形に隆起していた。おむすびやピラミッドの尖端といった感じの奇型である。

朝一番に炊き上がったご飯を神殿の棚に供えるオボックサンそっくりだった。

トッコスは目立ちたがり屋でイヤに氣取っていた。

鍔のつがった軍帽をま深くかぶり、白手袋に横幅の広い乗馬ズボン、腰には茶色の牛皮でカバーした軍刀を吊していた。

背筋をピンと伸ばし、胸を張り、半長靴の踵に装着したメタルをカチツと鳴らし、直立不動の姿勢で挙手の礼をする姿

はカッコよくサマになっていた。

「オレはハンパな男じゃない」

暗に中味のうすい自己顕示欲を見せつけているような気がした。

なぜかといったら、伝習館には彼のほかに2人の軍事教官がいたからだろう。

一人はダゴ

もう一人はシマオ

ダゴは本名、黒田。細身でチョビヒゲ生やした予備役の中尉。軍人らしからぬシャイな男で、戦後は駅前を下駄屋を開店していた。

シマオは名のとおりドケチな野郎。生徒たちは当時の山本奉文大将を称えるマレーの虎（ハリマオ）の替え歌を合唱していた。スローテンポでこう唄う。

弁当のおかずはイリコだけ

それが無ければ塩かける

シマオ、シマオ、伝習館のシマオ
グアムからの帰還兵、横井軍曹の大先輩格で耐乏生活研究会の大御所みたいな存在だった。

荒い小砂の敷かれた校庭の中央で木銃かかえて気の遠くなる時間を単調に過ごす下級生たちは惨めだった。

私は隊列の中段にいた。

比較的のんびりできるところ。

要領を本分とする私なりの生き方である。

ただ、その日に限り前日に食った芋めしやキンピラの効果が靦面に^{（まへ）}出たせいか腹の虫が躍動^{（うご）}したのには参った。緊張の極限に達したところでききな

と、どでかい一発をブツ放してしまつた。

ヤベエーッ！

と同時に、全員がブーッと吹き出し、周囲が大爆笑の渦と化してしまつた。

その爆発音にトッコスはすぐ反応した。

「いまの一発はキサマかっ？」

すごい剣幕で私に迫ってきた。

「ハ・ハイ、自分でありませう！」

気をつけの姿勢で私は震つた。顔面蒼白。

「そうか！キサマだったか！」

指で私の胸を刺す。

「ハ・ハイ、左様であります」

恐さで言葉にならない。

「キサマは？」しつこい。

「一年一組、ヨコヤ……」恐い。

ひと呼吸おいてから……

意外や意外。トッコスの口元から、

「元気があつてよろしくい！」

なんとお誉めの言葉が発せられたではないか。私は一瞬、耳

を疑った。信じられん。

隊列へ戻つた私にクラスメートの樋口隆三が「良かったなあ」と

同情、同じく平野孝も「こんなこと二度と

ないぞ」と安堵してく

れた。

その開放感にひたつた私の剽軽な仕草が同級生たちを喜ばせ、また笑声のうず。

気が緩んだその時だ。

私の肛門の括約筋が再び雷動しはじめた。

その隊列の中央で私はまた、ブーッ！

と、第二発をカッ飛ばしてしまつた。

臀部の異常現象には我慢できない。

大音響は校庭をゆるがした。

こんどはトッコスがうなる。

「キサマはくどい」

私の可愛い頬つべへパンチの無差別攻撃。『往復ビンタ』の鉄拳制裁で私の顔

はみるみる真っ赤に膨れあがつた。

形相が一変するほど。

痛いなの。人間はホドホドに生きるべき。過ぎたるはホント及ばざるがご

としの格言どおりだね。

これが現代だったら、人権だの慰謝料だのと大騒ぎになる事件になっているはず。こんなキツイお仕置きは日常茶飯事で、だれも抵抗できないし反発もできなかった時代だ。

トッコス



ブタれた日には、夕食時にきまって父へ不満をぶつつけたもんだ。

「なしけん、中学は、クラすつ所ね？」

私は父の返事に期待してつめ寄った。

火鉢の傍で煙管に刻ミタバコをつめ点火し、一服プーッとふかした父は私に向い、きまってワンパターンの答えだけしかしなかった。あつけない説明だ。

「フミオ、先生方ちいうもんわだな：お前たちが将来立派な人間に成長して社会の役に立って生きてゆけるように願いのムチを振つとらるつとタイ」

コンコンと火箸をたたいて灰をさらう。

なんち云いよつとね？ 話にならん。

ところが母はひと味ちがつた。

「昔からなへをふつて仇な心と思ふなよ。ブツという字は仏なりけり」という名句がある。匂いなければタダの風タイ」
実に納得のいくあつさりした解答である。

ユーモアがある。懐が広くて温い。

「毛利元就の狂歌。あらホンに良か。への字のあとに点、そしてへの字、すべてへだけを綴った連続句だよ。おかしかね」

「平賀源内も放屁論ちいうのを書いとらっしゃる。へは音楽タイ」

芸術性の高い教養ある話とうけた。

「へで庭の実を落したという豪の者がいたと書いとらっしゃるが、ちよつとオーパーヤ。ありや話を面白くおかしくするための脚色じゃろね」

マジな顔でへの理論を語る母の声聞いて私は心が平静に戻り安眠したもんだ。

くさい話はこのくらいにしとこう。
世の中が貧困だったが人の心は決して貧しくなかつた青春時代のひとコマである。

私は幼時から年老いた人たちに囲まれ、柳川の楽しい話をいやというほど聞かされた。

藩主が文武両道に秀いで庶民に心の豊かな生活を伝承したと伺っている。自分が後輩へ語り継ぐべきトシになり、思い出すたびに記述し、イラストにし、写真を添えて次代の人たちへ柳川の良さを伝えてゆきたい。

次回もまた誌面でお会いしましょう！
my thanks for your thoughtfulness!
元気でご活躍ください。



続・野球部顔末記

高2回卒 山田銀一郎

私は、憧れの野球部に入部を許され、毎日補欠組の中で少しでも目立とうと、練習開始30分前には必ず運動場に行き、用具の搬入・水汲みなど、また監督玉真さんのお迎えやらで無我夢中でした。

練習が始まるとキャッチボールだけはさせて貰い、フリーバッティングになると、選手が打った塀を超えたファールボールを拾いに走り廻りました。

監督も玉真さんから安部さん（元八幡製鉄のキャッチャー）に変わり、個人ノックも激しく、各選手はへとへとでした。練習の甲斐があり、又山田善作氏という史上稀に見る剛速球のピッチャーを擁して、夏の全国大会予選では決勝まで勝ち進みましたが、小倉中学との決勝戦で1対0で惜敗し、甲子園への夢は消えました。

夏の大会も終わり、2、3日後と思いますが、新人戦のチーム編成の発表が安部監督からありました。

私は城内小学校の同級の佐野雅和君がレフトの時はセカンド、松藤英生君が

フトの時は、佐野君がセカンドで私は補欠という、半端ながら試合に出られるポジションを貰いました。城内小学校剣道部以来の良きライバルで、佐野・松藤の両君には、勉強と背丈で勝ち目はないが、野球では負けられないぞ、との意識がありました。

私のデビュー戦は、熊本の山鹿中学での試合（招待試合）でした。

相手は山鹿中学で、レフトの守備位置から15メートル程後ろに横断幕があつて、この幕の上を越えるとホームランとのルールがあり、誰かが「レフトは狭かぞ」と言いました。

試合は第2試合で午前10時か11時位の時間で、天気が良く眩しかっただけが鮮明に記憶にあります。

私は8番セカンドで試合に出して貰いました。私に打順が廻つて来ました。

「銀！ 行け！」

と、気合を掛けられ、生まれて初めて試合でのバッターボックスに立ちました。何がなんだか判らず、1球目が凄いいスピードでど真ん中のストライク。2球目、少し高かったが球に当てました。球が何処に飛んだか判らず、とにかく1塁まで走りました。ランナーコーチが廻れ廻れと右手をぐるぐる回している、2塁近くになり、サードのコーチボックスを見ると又手をぐるぐる回している。ストアップの声と共に山田善作氏がコーチストップスで、

「レフトオーバータイ。よう打ったね、3塁打タイ！」

とお褒めの言葉。後で聞いたら、私の打球はレフトの頭を越えたが、太陽の光線でレフトが打球を見失ったこともあり、打球はレフトを越えて横断幕の下を潜り、転がって行っているうち、3塁打となったようです。

山鹿中学との試合は伝習館が勝ったと思います。

第4試合が熊本の洛々鬢との試合でした。

第1試合に続きセカンド8番で出して貰いましたが、洛々鬢の岡本投手は当時熊本県でも1、2を争う速球とドロップが凄いい左腕のピッチャーということを知っていました。岡本・山田両投手の投げ合いで、点差は記憶にないが、漸く勝ったと思います。私は三振2個で、岡本の球にバットがかすりもせず、ねじ伏せられました。中途交代をさせられました。岡本のドロップは頭の上くらいからストンと落ちてくる球でした。凄い奴がおるもんだと、初打席3塁打の喜びも霞んでしまい、意気消沈のデビュー戦でした。

帰りの汽車の中で、牛シヤンから

「山田もまだまだ赤子やね」

……心の中で「今に見ている」と妙に闘志が湧いてきたものでした。

私はそれ以来、更に気合を入れて家での素振り続けました。その頃の監督から

「お前は、身体がコマイから長打を狙うな。とにかく、パチンと打ったら直ぐ走れ、打ったら走れ」

と言われました。これを身体が覚えていのかどうか判りませんが、今ゴルフの

ショットも、パチンと打ったら必ず右足で蹴つてからその足を前に出す癖は直りません。ある時、一緒にプレイしていたシングルの人からも

「山田さん、球は目の前に止まっておるから逃げませんよ。ゆっくり打ったら」と注意されたこともあります。しかし50

数年前の「打ったら、走れ！」の天の声？ は未だに無視出来ずにいるようです。



私の中から高3までの野球部の思い出は、私の一生の内が一番面白く、充実した期間ではなかったかと思えます。とにかく、こと野球に関しては『一生懸命であった』の一語に尽きます。

野球というスポーツは一人でやる競技では無いものの、与えられたポジションで自分の持っているものを全部出すことができるか、またその時々チームの状況がどうであるのか、そこで自分は何をなすべきか、良く全員野球と言われますが、選手一人一人の実力が無いと、強いチームにはなれないことと思えますが、試合には流れがあり、一選手のエラーが命取りになることもあり、また一人の選手のナイスプレイ（投・打・守）で一挙に勝利に繋がることもあり、そこがこの野球というスポーツの面白いところではないかと思えます。

と書きますと、私が如何にも野球をよく知っており、試合の大事な時にはナイスプレイをしていたかのようにですが、伝習館の野球部時代の選手としては、最終

的には守備はセカンドで打順は2番でした。普通の見方では打順が2番ということとは足が速くてバントが上手く、2塁手とは併殺プレイが上手く内野の要となるリードオフマンとのイメージがあると思いますが、柄にもなく、私も夢として、

当時の東京六大学の慶応の名セカンドの宮崎要（後の西鉄実業団の監督）、セネタースの荏田久徳、巨人軍の千葉茂、のような華麗なプレーを目標にしていました。そのプレーを見たこともありませんでした。その雑誌やグラビヤでみて、臍気ながらイメージとして頭にありました。しかし現実には厳しく、夢のようにはいかないものでした。

春日原球場で、当時の進駐軍（春日原キャンプ）と練習試合をしました。アメリカ兵内野手の俊敏なプレー、また豪快な打撃にはビックリ仰天しました。

この試合から数週間後に、伝習館グラウンドで同じ進駐軍と試合をしました。が、マンモスみたいな4番バッター（左打者）が打った打球が私の守っている2塁ベース寄りに猛烈なゴロとなって飛んで来ました。「ヨシ！」と華麗にさばいてサイドスローのナイスプレーで処理しようとして、少し前進して捕球しようとした瞬間、地を這うようなゴロがピンと跳ねてグロップを弾き、モロに顔を直撃されバシッという音とともに、球でグロップを一緒にとばされました。強襲ヒットという奴。1塁手と遊撃手が駆け寄ってきて

「大丈夫ネ！ 血の出トルバイ」
タイム。口から血が吹き出ている。手で触ると前歯がない。

「銀ちゃんの歯のノーナットル！」「ヨカヨカ」「ハヨ誰か石田歯医者に連れて行け」

応援の観客も口々に「あの当たりはダッデン捕れんバイ」
「痛いやら恥ずかしいやら、心の中では（アリアーイレギュラーぞ。球が小石で跳ねタツタイ）」と、手拭いで血だらけの口を押さえて石田歯科医院に走りまわりました。石田歯医者さんナ

「歯は折れトランゾ」
と、前歯2本をぐいーっと元に戻し、赤チン塗つところタイと、口と唇の廻りいっばいに赤々と赤チンを塗って、ハイ終わり。

翌日の練習前に2塁ベース近くの小豆のような小石を一粒一粒拾いました。

牛シヤンの
「口の腫れトルゾ。練習は休まんか」
「もう痛うナカです」

とは答えましたが、ズキズキとして少し痛かったです。弱音を吐いてはいけないと思ひ皆と同じように練習に参加しました。

1番サードの与田竹次君は、足が速く盗塁を良くしました。特に足からのスライディングはピカイでした。

監督さんは誰だったか良く記憶にありませんが、スライディングの練習をさせられました。1塁からの離塁の仕方（リー・リー・リーである）、身体を斜めに滑る動作です。

三池高校との練習試合がいつも練習している伝習館のグラウンドでありまし

た。私が1塁ランナーとなり盗塁のサインが出たのでリー・リー・リーと離塁して、2塁にスライディングしました。その当時、私は親父と同じ白ベコを穿いていたのですが、知らぬ間にヘコがづりおちて、汗で股クラから膝にかけて巻きついていたらしく、習った通りに、先ず身体を少し右に倒し右足を斜めに出しかけたのですが、思うように股クラが開かない。仕方なくそのまま滑り込んだら、右足の開きが少なく2塁ベースに左足が届かない。見事にタッチアウト。一瞬にしてチャンスを逸しました。ベンチに帰ったら、監督

「ナシケン、もつと右足バ抜けて滑らんとカ、コンバカタレが！」
ベルトを解いて見ると、ヘコが右足に汗で巻きついており、右足の尻から大腿部にかけてベラツと皮が擦り剥けて血が滴っており、ピリピリと痛かったですよ。

私は、その時以来現在に至るまで、金輪際ヘコは穿かないことにして、パンツ一筋で通しております。

この試合では、ピリピリと右の太股が痛みました。監督からの「バカタレ」が歯がゆくて、板橋投手の直球を右中間に叩き、講堂の横のセンダンの樹の中段までライナーで飛ばした一打は自分ながら会心の当たりでありました。(球が跳ね返ったので2塁打に終わりましたが……)

翌日登校したら、外野の鉄棒付近で観戦していたという友達「銀ちゃん、昨日の当たりはホンナコツは3塁打バイ。センダンの実のバラバラ

落ちたよ」と皆の前で褒めてくれました。その友達が誰だったか、どうしも思い出しません。



心当たりの人はいませんか？
私も、曲がりなりにもレギュラーとなり、2塁手となりました。

監督は安部さん(八幡製鉄の捕手)、大橋さん(関大から門鉄のショート)、井筒さん(早大のショート)、高3の最後が前川さん(立教から西鉄実業団のショート)と有名な方々でした。

大橋監督は、門鉄に入社される前は、関西六大学の関西大学のショートで、東京六大学の若林投手(阪神)を擁する法政大学に初めて関西六大学が勝って大学選手権での全国制覇を遂げたと、自慢げに話されていました。大橋さんは顔面が赤く皮膚にミミズが這っているようで、今にして思えば、大変な酒好きで顔のミミズは酒焼けだったのだと思います。練習では何時もノックバットを持ち、言葉より先にバットが飛んでくるが多かったのが記憶に残っております。いつも酒の匂いがプンプンでした。

何の都合か分かりませんが、急に柳川高校(当時は柳川商業)の監督として行かれることになりましたが、行かれる日の帰り際に、大橋さんから

「銀、ちよつと来い。ヨカコツバ教えとく」とバックネットの所に呼ばれました。

「お前はセカンドなので、外野を抜けた長打(2塁打)を打たれた時に使う「隠し球」を教えとこう。良いか、打ったバ

ッターが2塁ベースに来たら先ず褒める(ナイスバツティング! とかなんとか言って)。その時外野からの返球をグロープの中に入れておき、ランナーに絶対悟られないようにしてピッチャーとサインを決め、ランナーが離塁し出す頃を見計らいピッチャーにサインを出せ。ピッチャーはプレートに足を乗せないで投球動作に移る。これで良い。一度やってみろ絶対かかろぞ」

「有難うございませう。やってみます。」と、何か金の宝箱を貰ったような気分でした。

伝習館は前の年の夏の大会は小倉中学(全国優勝2連覇)に決勝戦まで行き負けましたが、当時は福岡県内では実力はトップクラスでした。

投手も良い選手が多く、県南部では修猷館(投手―河野「西鉄」、福工(投手―玉川「西日本パイレーツ」、明善(投手―大津「西鉄」、八女高(投手―平島「慶応)三池(投手―板橋「法政―八幡製鉄)、柳川商業(投手―権藤「阪神・大洋)、伝習館(投手―山田善作「八幡製鉄」、西川「東洋高圧)がシード校の常連でした。

小倉中学との対戦以来、招待試合とか対抗試合とか銘打って、方々に良く試合に行きました。

八女高との試合でしたが、同校のグラウンドであり、この時は山田善作氏が病気で、私の一級下のサウスポールの西川君が投げていました。この日は私は良く当たり、3塁打・2塁打とヒットの5打数3安打でした。

八女高は投手が平島でした。5点か6点の接戦で、何回だったかまでは記憶にないが、八女高の攻撃で、この回のトップバッターが左中間を割る二塁打を打ちました。球が私のところに返球されました。ようし「隠し球」を使ってやれ、と大橋監督の教え通り、私、「ナイスバツティング! 凄いな!」

打った2塁上のランナーはニコニコです。西川君に打合せのサインを出す。西川君は何食わぬ顔で、ワインドアップ、ランナーがするすると離塁、すかさず私

がタッチ。
ランナーはびっくり仰天のタッチアウト。八女高側の応援席から……
「バカタレ! セカンドは閨屋の息子か! キタナカゾー!」

「閨屋じゃナカゾー! 城内の百姓ゾー!」
と私。伝習館の応援席からはヤンヤの拍手と歓声……
「ナイスプレー! ヨカヨカ!」
これで相手はチャンスが消え、1点差か2点差で勝利しました。

帰り際、野球部長のカバさんと、副部長の牛シヤン共々
「山田どこで覚えタツか、あげなプレーバ」
「大橋さんからです」
「そうか、良かったぞ」
と、野球部に入って初めて褒められました。応援に来ていた友達からも

「銀ちゃん、良かったバイ」
と声援を受け、私もいやいやと言いながら、満更でもない気持ちでした。
高2の春になると九州大会があり、こ

これは夏の全国大会の前哨戦でもある新人戦です。

球場は春日原球場で、大松下のアメガタの息子（2級下）がマネージャーだったと思います。集合が午前6時に西鉄柳川駅だったのを「ロクジ」の「ロ」を抜かして「クジ」——午前9時と聞き違えていたのが後で分かりました。当日は朝から雨でしたが、早めにと8時40分頃に西鉄柳川駅に行つたのですが、野球部の者は誰も居ません。オローなしか。おかしカネー、と9時過ぎまで待ちましたが誰も来ません。

そこへ大牟田行きの下り電車が着き、野球部の連中がぞろぞろ降りてきて……

「オロ。銀ちゃんナンバしよるかい？」

いきなり牛しゃん……

「山田！ 今何時チ思うトツトカ！」

私……「9時0分です」「マネージャーが9時集合と言いました」

大松下のアメガタ……

「おりあ、6時チ言いました」

「バカタレ、9時チ言うたゾー！」

「インニヤ、6時チ言いました」

ノレンに腕押し、糠にクギである。

牛しゃん……

今の香椎花園）でした。本式のグラウンドでした。

6対2位の点差で勝ちましたが、この時に2回目の隠し球をやりました。ランナーが背の高い横着そうな面をしていますが、力がいり、球を右手に握り替え、肩にいやというほどの強さでタッチしました。

「アイタター！」

と相手の選手。タッチアウトでした。

この時も相手観客席から野次られ、味方の観客からは拍手喝采を受けました。意気揚々と帰つたものです。

九州大会は準決勝で負けました。次は夏の大会へ向けて毎日々々練習に明け暮れました。

七月も終わりの頃と思います。

個人ノックでくたくたになつていたところに、野球部長のカバさんが血相を変えてきて

「みんな、練習を止めて集合！ 山田は一歩前に出ろ」

なんじゃろか？ と考えるまもなく

「山田、もう少し前に出ろ！ 今日夏の大会の打合せがあつた。その部長会の満座の中で大恥を搔いた。山田！ お前が原因タイ」

「なしけん？」

「この前の香椎球場で山田がやった隠し球。あれはいかん、高校野球に相応しくないプレイだということで、散々やられた」

「ソリバッテン先生、この前の八女高の時……」

と言いかけると、有無を言わせず

「とにかく、イカン！ 今後絶対するな。みんなに言うておく。特に山田判ったか！」

「ハイ」と私、生返事をしました。

甲子園行きを賭けた夏の大会での戦績は、南部予選では4戦4勝で南部代表の4校に入りました。



野球部にまつわる小話

—その1・近眼—

私は目には自信があり、空気銃で狙う小鳥などの獲物を見つけていることは得意で、高い木の枝に止まっている小鳥を撃ち落とすのは自信がありました。

高1の新学期に身体検査がありました。身長・体重と検眼があり、担当が野球部長のカバさんでした。検眼になり、しゃもじみたいいな木製の目隠しで、片目

ずつ検査しましたが、両眼共、検眼表の一番上の大きい字が霞んで見えません。カバさんがムチで指して

「この字は？」

「見えません」

「スラゴツ言うな！ ニヤガつて」

「ホンナコツ見えんとです」

「いい加減にしろバカ。もうヨカ、はい次！」

カバさんにバカと言われてまともに検眼して貰えませんでした。

その時は、あの字が見えんとはおかしいなあとは思いましたが、それだけで、目医者に行くでもなく、そのままでした。

良くそのころ、岩波文庫を友達から借りて、40ワットの裸電球の下で読んでいました。何を讀んだかは全然思い出ませんが、目が時々シパシパしていた記憶があります。

バッティングの練習では、球を良く見て打つようになり何の支障もありませんでした。

この近眼が高3最後の夏の県大会の八幡高校との準決勝戦（小倉の豊楽園球場）での大失敗となりました。2番の私と3番の佐野雍和君の連続ヒットで、私がサードランナーとなり、打席には4番の山下邦彦君でした。

この時は曇天で、ベンチの監督が良く見えません。スクイズのサインは監督が腕組みをして帽子を被り直すのがサインだったと思いますが、サインが出たように見えたので、ホームに向かって駆け込みました。打者の山下君は「ナンバ、走り込んでキョット？」と言わんばかりの

顔で、何もしません。見事にタッチアウトでありました。

ベンチの監督（前川さん）

「サインも出しトランプトニ、コン馬鹿が！」

味方の応援席からもさんざんに野次られました。八幡高校には5対3で負けました。

甲子園を目指した私の野球生活と昭和25年の暑い夏も終わりました。



—その2・約束の時間の教訓—

本文でも書きましたが、6時を9時と聞き違えて、牛シヤンから説教された時の恥ずかしさは、その後の私の人生で、人との約束の時間を守ることに、大変な教訓になりました。良く覚えていますが、牛シヤンから

「時は帰って来ない」

「時間ドロボーだ」

というようなことを言われました。それから、約束の時間の少なくとも30分前には約束の場所に行く習慣を実行しています。牛シヤンのキツイ説教が無かったら、生来が凡帳面でない性格の私は、人の信用を幾度となく失墜していたことと思います。小柳先生（この場合牛シヤンじゃなくて……）に心から感謝しております。



—その3・隠し球の教訓—

隠し球、いわゆる騙し球のことですが、野球のルールには何も書いてありません。

ん。

2・3年前の甲子園大会のテレビ放送を見ていましたら、サードランナーが3塁手の隠し球でタッチアウトになった場面を何度もリプレイで写して、解説者が見事なプレイですね。頭腦的プレイですねと盛んに褒めていました。又巨人軍と何処かのチームとの試合の珍プレイ番組で、巨人の清原選手がヒットで出塁した場面でしたが、隠し球にかかり、ポカッとされた清原の顔が何度も大写真になりました。

50数年前、私が八女高と香椎球場でやった隠し球を成功？させた時の、タッチアウトとなったランナーの顔は、勿論思い出しません。相手チームの応援団から野次られた「セカンドは闇屋の息子か、きたねーぞ！」の言葉は今でも思い出します。それとカバさんから説教されたことは良く覚えております。

私が隠し球を使ったことの善・悪は別にして、ヤッタ方を見てみると、快感と、ヤラレた方の悔しさとを何時も考えるようになりました。

隠し球は野球のルールブックには、何も書いてないものの、社会生活における行動の中で、規則にはないが規範に照らし、隠し球的なことはするな、という潜在意識を私が持つて今日まで行動して来たことは、カバさんの説教の大きな教訓ではないかと何時も思っています。

以上

—平成十四年九月—

白秋と禅寺丸柿 (王禅寺)

高2回卒 平河智

柿生うる 柿生の里
名のみかは 禅寺丸柿
山柿の赤きを 見れば
まつぶさに 秋は開けたり
(北原白秋・王禅寺境内碑文)

何時だったか、武蔵野の六地藏を探していたら川崎の王禅寺へ行きついた。此処には六地藏が二組あることが判ったが、この寺は元々北原白秋縁の寺である。六地藏が無くても行ってみようと思っていた寺である。

寺名の王禅寺は、当地川崎市麻生区の町名でもある。昔の古刹の寺域は広大であり、それを引き継いだ王禅寺の町域はとてつもなく広い。

昭和五十年頃、新百合ヶ丘駅が新設され駅前が開発されるまでは、この地区は大変静かな町であった。現在でも宅地開発が進み住宅が増えたといえ、奥まった処は一部に田舎の風情を残した落ち着いた町である。

義姉が住んでおり、又同じ麻生区で隣の早野には墓参でよく出かけるので、小田急線の新百合ヶ丘駅、柿生駅はよく利用している。

この数年こちらへ出かける度に、王禅寺へ廻ってみようと思いつながら家を出るが、結果的にのびのびになっていった。その理由の一つに柿生駅前のとんかつ屋「とん鈴」がある。ここの食事が大変美味いので出たら必ず寄ることにしているが、この食事の時間と寺へ廻る時間がうまくかみ合わない。先日も一時間以上待たされ、昼食に二時間近くを費やしたが、それでも食べるのが優先だから呆れたものである。そんなこともあり、寺は又この次にしようがここ数年続いた。

樹木に覆われていた。寺の話によると標識が無いのは、寺が観光化するのを避けるためであると言う、それでも寺に関する事は親切に説明してくれた。

星宿山王禅寺

延喜二十一年（九二一）高野山第三世無空上人によつて開山され、関東の高野山とも称された東国鎮護の勅願寺であったという。又往時は密教三学兼学の道場で三十六の末寺をもち、寺領には九十九の谷があったと云われている古刹である。現在は真言宗豊山派に属する。

中世には、天正十二年に北條氏直から寺領五十貫、また江戸時代寛永十九年には徳川氏から三十石の禄を与えられているが、遡つて、元弘の役（一三三三）では鎌倉攻めの新田義貞の兵火で焼失し、これを等海上人が再建したという歴史も持っている。

寺の説明によると、建保二年（一一二四）この寺の山中で偶然発見されたのが禅寺丸柿である。これまでの日本の柿は全て渋柿であり、この禅寺丸柿が日本で最初の甘柿（不完全甘柿）と位置付けされる貴重なものだと言う。この柿を等海上人が近隣に広め、この地域一帯が柿の名産地となった。

柿は江戸時代には、江戸っ子に水菓子としてもはやされ、明治四十二年には天皇陛下に献上されたという。又明治二十二年には柿生村が誕生した

が、川崎市に編入とともに消えた。しかし柿生の名は今も駅名のみならず学校、病院など多くで使われている。

寺の本堂前に禅寺丸柿の原木があり、その傍らに白秋の歌碑がある。原木は昨年までは殆ど実を付けなかったそうだが、有志の努力の甲斐あつて今年はたわわに実つたとのことである。その柿の小粒で可愛いというか、上品な色が秋空に映えて、見る者の心を和ませてくれる。

白秋はこの王禅寺がよほど気に入つたとみえて、砧村成城に住んだ昭和十年代に四回ほど訪ねている。そして四十首近い歌を詠んでいる。当時としては珍しい自動車に乗って訪れたと今も寺の語り草になっているそうである。

歌碑の碑文は白秋の歌集「椽（つるばみ）」に収められた「柿生」の一節で、冒頭の白秋の直筆を刻したものである。歌碑の写真を撮ろうと努力してみたが、刻字が薄く、歌碑全体が黒ずんでいて果たせなかった。寺では歌は昭和十七年作で絶筆に近いと説明している。

年譜によると、「椽」の編集を終えたのは昭和十七年七月で、白秋の死の四ヶ月前なのでこのような説明になっているのであろう。

帰りは急坂になっている山道を正門へ下りた。そこで振り返って見ると、小高い丘というより、外からは何も見えない普通の山である。怡も観光なんかは寄せ付けられないぞと言っているようでもあつた。数年前證誠寺の和尚が別れ際、小さな声で呟く様に「土日のバスの観光客がネエ」と云われたのを思い出した。小生

もその観光客の一人には違いないのだが……。
(二〇〇三・九)



禅寺丸柿と歌碑

柿生

歌集「椽」より

柿生ふる柿生の里

名のみかは禅寺丸柿

山柿の赤木を見れば

まつぶさに秋は開けたり

柿もみぢ散り交ふ見れば

いちはやし霜か泣えたる

照る玉や梢にさはに

下照るや径映えたつ

げに柿生屋群柿植え

老柿は屋群さし蔽ふ

年いよいよ柿は神さび

うやうやしい人はものいふ

この柿や朱の豆柿

垣内にも庭にも外にも

道べにも丘にも野にも

照る玉と綴る山柿

柿生はよしも

終の住処 阿佐谷時代の白秋

高5回卒 下河秀行

白秋は、昭和十五年四月都心に近い當時国鉄中央線沿いの杉並区阿佐谷五の一に、成城から引越して来ている。

奇しくも今、私が勤務している会社のすぐ近くに住んでいた、と言うことで余計に興味を注ぎ、何度も現地を尋ね、このエッセイを書くきっかけもなった。

阿佐ヶ谷界隈（高円寺・荻窪を含む）は、新宿・渋谷など中心地に近いこともあって、沢山の有名文士がいて与謝野晶子、井伏鱒二、太宰治、伊藤整、河盛好藏、大宅壮一、金田二京助、谷川徹三、田宮虎彦、富田常雄等が住んでおり、九州出身の文士では、北原白秋を始め、白井吉見、伊馬春部、洪川驍、林房雄、蔵原伸二郎、火野葦平など錚々たるメンバーが住んでいた。杉並区では、現在でも「阿佐谷文士村」として多角的に文豪たちを売り出している。

白秋は、昭和十二年の五十二歳頃から糖尿病と腎臓炎を併発しており、視力が年々落ちていたにもかかわらず、活発な作家活動を続けていた。

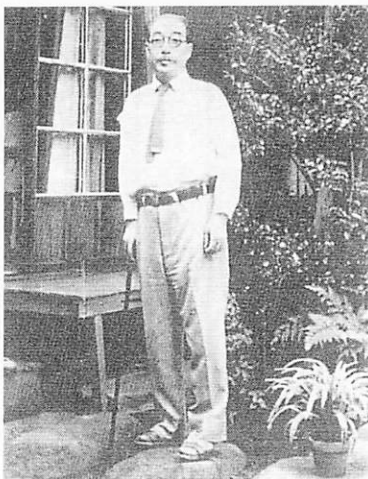
昭和十五年六月、仙台で多摩東北大会、その夏、鎌倉円覚寺で多摩全国大会、歌集「黒檜」、詩集「新頌」を発刊した。

福岡日日新聞文化賞受賞で最後の帰郷

昭和十六年一月「白秋詩歌集」発刊。特に、昭和十六年三月、交声曲詩「海道東征」で福岡日日新聞文化賞を受賞のため帰郷した白秋が大歓迎されている様子を新聞で大々的に報道されたことを私は子供ながら微かに覚えている。

北九州和布刈・福岡市経由で、水郷柳河に帰郷するとともに、日向・大分・奈良・吉野・名古屋と回る、という実には後二十四日に亘る大旅行となり帰郷している。

柳河で「多摩九州大会」が開かれ、これが白秋にとって生前最後の帰郷とな



昭和十五年七月、同年三月に移転してきた阿佐谷の自宅で

る。

白秋は、明治三十七年上京以来、郷土の土を踏んだのは、前後僅か六回である。

昭和十六年五月、芸術院会員に推挙されている。十一月、神奈川県三浦三崎・見桃寺の白秋歌碑除幕式に出席が最後の遠出となった。

腎臓と糖尿病を病んだ最期！

昭和十七年二月、腎臓病と糖尿病が悪化し慶応病院に入院。まもなく杏雲堂病院に移り療養中の三月「短歌の書」刊行「日本伝承童謡集成」など十数冊の著作を企画、「溪流唱」などの編集を終え、十月水郷柳河写真集「水の構図」の序文を記す。「水郷柳河こそは、我が生まれの里である。この水の柳河こそは、我が詩歌の母體である。この水の構図、この地相にして、はじめて我が體は生じ、我が風は成った」

誰しも郷土を想わない人はいないが、白秋の郷土柳川思慕の強さは凄かったようである。白秋は、昭和十七年十一月二日午前七時五十分、阿佐谷の自宅で「新生だ」の一語を遺し、五十七歳九ヶ月の生涯を閉じた。

葬儀は、同十一月五日青山葬儀場で行われ、十二月二十一日多摩墓地に納骨された。

ご承知のように白秋は、母校伝習館高校の校歌を作詞し、山田耕筰作曲でわれわれの青春時代を謳歌させてくれた。

白秋は、一部には「言葉の魔術師」と言われることがあるが私は決してそうは思わない。

白秋の詩、短歌、童謡、歌謡、隨筆、

評論、小説、俳句と多岐にわたるジャンルの作品は、柳川で生まれ、育まれた豊かな感情と情緒、即ち白秋詩魂の水脈が、この偉大で天才的な詩人を生んだ、と確信してやまない。

壮年から熟年へ —東京五期会閉幕 二十五周年記念会—

当番幹事 21年 酒井清行

五期会は幕を閉じました。本会は昭和十七年から二十一年までの五カ年に、旧制中科伝習館及び柳河高等女学校へ入学した同窓生、約三百五十名で構成されています。社会の中心でバリバリ活躍している四十代の壮年者だけで昭和五十四年にスタートしてから二十五年、全員年金受給者になりました。高齢化には勝てず、平成十五年のこの第二十五回大会で、これまでの五期会は幕を引くことになりました。

記念すべき最後の大会は平成十五年十月二十五日（土）目白の椿山荘で開催され、百十名の多数の同窓が参加して盛大

に挙行されました。

開会に先立ち、幹事の江崎和夫（一七年）、石崎知見（二〇年）の両氏から、五期会が閉会に至った経緯と、今後の新しい「三稜ゆうゆう会」の発足について説明されました。

校歌「星座よ輝け」斉唱のあと、来賓の神坂校長から「母校は三池高校を凌駕して明善高校に迫っている。今後とも全教職員は情熱を持って育英に専念し期待にこたえる」との力強い挨拶をいただきました。

乾杯の音頭は東京同窓会長の江崎正直氏（二〇年）でした。前置きの中で「運命のいたずらを感じる。文部省の高石審議官室に呼ばれて『東京同窓会は老人臭くて、いっちゃん面白なか。四十代後半の壮年組で集まろうや。ひと肌脱いでくれ』と言われて五期会を立ち上げた一人が、昨年から東京同窓会長に納まっている。これから五期会の皆さんも同窓会活性化に力を貸してほしい。来年（平成十六年）六月二十七日（日）に予定している総会では、エベレスト登山で有名な三浦雄一郎氏の講演があるので、一人でも多く出席していただきたい」とのお誘いがありました。乾杯をおわり会食、懇談に移りました。

座が和んだところで、高巢克己氏（一九年）のギターの弾き語りがあり、青春時代の学園生活にまつわる歌「森の小道」「スズカケの道」、ハワイアンでは「小さな竹の橋」「ワイカプ」最後に「ふるさと」（つさぎ追いかの山）を全員で合

唱し、会場は大いに和みました。プロ級の技に皆が感心しました。

続いて石崎知見氏（二〇年）が小野善陸氏（二〇年）作の漢詩「柳川好」を朗々と吟じました。この漢詩は「ふくおか文化祭二〇〇三漢詩大会」で全日本漢詩連盟会長賞を受賞しています。プロ級の腕前の作品で、愛する郷土、観光柳川が見事に描写されています。

柳川好 斜庵 小野善陸

渡水看花還看花

水を渡り 花を看還花を看る、

晴光七十二橋斜

晴光 七十一橋 斜めなり。

春風八里扁舟路

春風八里 扁舟の路、

自到旧時詩聖家

自ずから到る 旧時詩聖の家。

〔意〕

小舟で水路をめぐり、次から次へと花を見て回ったよ。

春の晴れた一日、そよ風に吹かれて、沢山の橋をくぐり、

気がついていたら、いつの間にか、自秋の生家に着いていたよ。

はるばるアメリカ・オハイオ州から参加したバーバラ・富美子・リチャードソンさん（一九年）が、飛び入りでフラメンコを披露するハプニングもありました。

バーバラ・富美子さんを始め、九州、関西、東北から参加した遠来の客十二名

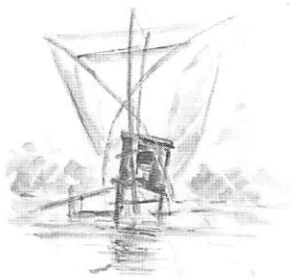
にお土産が渡されました。

閉会のスピーチに立った高石邦男会長（二七年）は「五期会は設立されて二十五年がたち使命を終えた。これから三稜ゆうゆう会として新たなスタートを切るとともに、皆さん、お元気で三稜会、同窓会を守り立てて欲しい」と挨拶されました。

最後に校歌三曲、柳河高女校歌（花咲き実る）伝習館準校歌（白雲なびく）柳河高女校風振興歌（水の郷）を斉唱して三時間に及ぶ記念会が終わりました。

帰りに記念文集『鳥兎匆匆二十五年』が渡されました。成清良孝氏（二八年）の編集になる文集で、十七名が寄稿しています。五期会の発足から終わるまでが綴られており、よい記念になります。

鳥兎匆匆 25年



五期同窓会 記念文集

オリンポスの螢

ギリシャあれこれ (二)

高6回卒 岡田哲也

柳川の忘れたい想い出のひとつが初夏の宵、お堀を乱舞するホタルの群である。家々の灯火が音もなく水面に揺れる頃、近く遠くにたまゆらの光りが飛び交うさまは、まさに詩の世界だった。

飛び疲れたのか、岸辺の木の葉に止まって光るホタルもいた。柳川のホタルはまさに郷愁のともしびである。

傳習館で生物を教えておられた岡忠夫先生が、ホタルの復活に尽力されていると、風の便りに聞いたのは卒業後何年も経ってからのことだった。

お堀や川の水が急速に汚れていった当時のことなので、先生もさぞかしご苦労されたに違いない。ともしび復活の朗報はいっつか届いてこなかった。

このようなホタルへの思い入れもあって、アテネで初夏を迎えると、フト気になるのが

ギリシャにホタルはいるか？
ということだった。

人々に尋ねてみると、
「昔、田舎で見たことがある」

と答えた人もいたが、これは例外で、いない、という人がほとんどだった。

赴任前、ギリシヤのイメージは青い海に白い家ぐらいのことだったが、行ってみると意外に多様性に富んだ国であることがわかった。南北に長く、北上するにつれて景観も気候も変わっていく。アテネのあるアツチカ半島では見かけない森や湖、そして大きな川や滝もある。

ホタルがいてもおかしくない筈だが元来が農業国でもあり、日本と同じような事情で消えていたのかもしれない、などと想像する。

一九八九年夏、アテネ日本人会の皆さんとギリシヤの最高峰、オリンポス山に登った時のことである。

アテネから高速道路を一気に約四百キロ北上し、昼食のあと麓の登山口に車を止め、半日がかりでひたすら登りつづけ、日暮れにやっと頂上直下の山小屋に着いた。

全身汗まみれだが風呂はもちろん、シヤワーもなく、裏手の細い小川から引いた樋の水でタオルを絞り、身体を拭いて着替えるしかなかった。頭上二米ほどの所から流れ落ちる樋の水は指がちぎれそうなほど冷たい。

山小屋のご主人は、ギリシヤ唯一のスイスアルプス公認ガイドで、修行中に見そめたというスイス人の奥さんご自慢のシチューやフォンデューの味は絶品だった。

登山は常に早寝早起き、まして翌朝はいよいよ登頂なので、みんな早めに二段ベッドに潜り込んだが、私はどうしても

そのまま寝る気になれず、意を決して冷水を浴びに行く。

月はなく、星あかりを頼りに歯を食いしばりながら、凍るような天然シヤワーを全身に浴び、やっとサツパリした体を拭きながら、脇を流れる小川を覆うように生い茂った草むらに目をやると、何やら光ものがある。

「？」
やがて星屑のような光は点から線になって、ツーツと伸びた。

「ホタルだ！」
柳川のゲンジボタルとはくらべものにもならない、か細い光だったが、目を凝らすと、そこかしこに点滅している。夏とはいえ標高二千米を超え、気温が低いせい、か、飛ぶことは少なく、もっぱら草むらで仲間たちと光り交わっているようだった。

眼前には険しい山塊が黒々と聳えている。澄み切った頭上の大空には幾千幾万とも数え切れない星のきらめく豪華なシヤンデリア。アフリカの砂漠で空にはこんなにもたくさん星があるのかとびっくりしたことを思い出したが、足もとの星屑のほろがもつと感動的だった。

ベッドに戻ると、すでにみんな安らかな寝息をたてて眠っている。起こすに忍びず、この発見と感動を独り占めにして寝入る。

翌早朝、ご主人夫婦とシェーパードに見送られて山小屋を出発し、約三時間の力登の後、ようやく二、九一七米のオリンポス山頂を極める。

ここはゼウスを主神とするギリシヤの

神々の座で、かの壮大な神話のふるさとでもある。はるか遠くに緑豊かなテッサリアの平原が広がり、その彼方にエーゲ海が輝いている。満足と感動は槍・穂高にも劣らない。

ひと息ついて、一行の方々に昨夜のホタル発見談を披露すると、

「へえー、ギリシヤにもホタルはいるんですね、見たかったなあ」

から始まって、ひとしきりホタル談義に花が咲く。皆さんの出身地はまちまちだったが、それぞれにホタルの想出を持つておられることは共通だった。

胸の中で、柳川のホタルは郷愁の、そしてオリンポスのホタルは旅愁の調べを今も奏で続けている。



望郷そして「ムツゴロウ会」

高9回卒 境延昭

敬老の日の朝、東京同窓会幹事の石橋（旧姓古澤）さんから会報「伝習館」の原稿依頼の電話を受けた。敬老の日とは相変わらず茶目っ気が過ぎると思いつつ、私のやや饒舌な長電話に折から九州から出てきた老母と妻の揶揄の餌食になってしまった。若くない二人の女の話は当然の成り行きのように柳川の食い物の話に移る。たまたま帰省した土用に食った「本吉屋」のせい蒸しには、荒川筋の鰻に馴染んできた妻も軍配を上げざるを得ず勝気な老母の鼻がピクリと動く。その母が若い頃から一目置いていたのが叔母の柳川弁であった。叔母は辻町育ちで柳川高女を卒業して数年して母のすぐ下の弟の嫁に來た。叔母は今に至るまで柳川弁で通している。母の里は犬塚の南の端で筑後弁の真つ只中とあって叔母の柳川弁は周囲の反発を買ったが、母は母の筑後訛りの標準語では歯が立たぬ京都弁の様なゆつたりとした上品さを感じていたようである。母と妻の話が際限なく続く間、私は暫し郷愁に浸ってい

た。

拳頭望山月 頭を挙げて山月を望み
低頭思故郷 頭を低れて故郷を思う
私が毎年「ムツゴロウ会」の会合に努めて顔を出すのは柳川弁聞きたさとそれに連なる望郷の気持ちが強いからの様である。

「ムツゴロウ会」は伝習館高等学校第9
回昭和33年卒業の東京周辺在住の仲間たちの会である。スタートは十年前、今や定かではない。最初は確か数奇屋橋横のニュートウキョウで初夏の頃の集いだつたように思うが記憶は臆である。その後新宿西口界隈で回を重ねさらに上野の中華料理店に場所を移した。開催時期も新宿界隈の頃から毎年11月初旬が恒例であったが、この数年は女性陣の勢いに押されてか雛祭り前後3月初旬というのが暗黙の了解のようである。十年の間、皆勤とは言えぬまでも海外出張でもない限り単身赴任の間も日帰りで参加して来た。仲間たちの顔ぶれはこの間に幾分変化している。立ち上げの頃から牽引役で

あった酒見君や平田君をはじめ数人の仲間が柳川に帰って行った。女性陣は最近参加数が徐々に増えている。最初の頃声の太さで目立った男どもを尻目に最近は気が付くと話の中心に女性が座っていることが多い。

来年の「ムツゴロウ会」は元氣盛りの大越（旧姓田中）、高橋（旧姓中村）さん二人の女性に尻を叩かれ幹事を引き受けた。平成9年以来7年ぶりの大役である。女二人に男一人ではとても太刀打ち叶わぬと夏の終わりになって急遽前に一緒に幹事をした北原君に助っ人を頼み込んだ。開催場所は一部には東京を離れ一泊でとの意見もあったが、幹事の体力と力量に任せてもうらうことにしている。今までと少しは趣を変えてお膳立てしたものと同相談を楽しんでいる。

ほとんど第一線を引いたとはいえ趣味やお遊びで忙しい仲間たちのこと、スケジュール調整に支障の無いよう遅くとも正月早々には開催案内が届けられるようにと考えている。



帰省ドライブ

国道1号・2号・3号
高21回卒 白谷政則

四年振りの帰省も又ケチケチの旅となる。旨いものを食べるといふ餌に家族のブーイングも無く話はずんなりと決まるかと思つたが「カニ食いてえ」「やっぱりふぐでしょう」「どちらに足が向くか何処に泊まるかその時の気分次第。今年中に柳川に着けばいいや」

メンバー	四人の命あずかる唯一のドライバー
M則	(52)
A子	(50)
M史	(21)
T美	(19)
マイカー	(5)

二人とも大学生なのに運転免許ナシ。早く免許取れ！
2000ccセダン。大人四人だと狭く仮眠もとれない。
冬用タイヤ装着、今回の為にカーナビ設置。

2002年十二月二十九日 昼過ぎに出発する。国道246号を厚木、御殿場と抜け沼津で1号線に入る。高速道路は

渋滞している様だが一般道路はスムーズ。

まだ明るい内に富士川の「道の駅」で軽く腹ごしらえ。道の駅とはトイレや土産物・軽食等がある休憩所（広い駐車場付）で、全国いたるところにあり長距離ドライブには欠かせない。今回も往復5〜6回は利用させてもらった。一般道は渋滞もなく午後八時過ぎには愛知県へ。食事、給油と時間を費やしたが急ぐ旅ではなく、安全運転で西へ西へと向かう。名古屋から先は初めて通るのでカーナビの案内に従い、1号線から25号線に入る。奈良を抜け大阪に出れば近道と思いついたものも「ふぐ」に決定。途中から国道をはずれ山道になり、しばらく走るとカーナビから「立ち寄り地点に着きました」の音声、何とここは三重と奈良の県境、山の中の青蓮寺ダム。誰かがカーナビに触れ間違つてセットしたみたいだ。真夜中こんな所を横浜ナンバーの車でうろろしてたら一家心中と疑われてしまうと、冗談を言いながら内心ビクビクで山道を引き返す。おかげで眠気も吹っ飛び、目的地「柳川」をセットし直し再びスタート。深夜のドライブは大都会大阪もスイスイ進む。「あそこに見えるお城はなあに」「ここは大阪だから大阪城に決まってるだろう」こんなくだらないおしゃべりも眠気覚ましに丁度いい。午前二時から明け方までが一番眠たい時間帯だが、急ぐより安全に徹する。兵庫県岡山県の2号線沿線のコンビニ・ファミレス・道の駅には何軒寄つたことか！。三

十分走っては休憩の繰り返し、車内では「又休むの？」しかし安全が一番。

自宅を出てから二十時間、三十日午前九時いよいよ広島県に突入。下関まではあと三〇〇km、今夜の「ふぐ」は間違いない。風呂に入りゆっくり休もうと福山市郊外の神勝寺温泉で休憩。手足を伸ばし疲れを取る。しばしの仮眠をと横になるが、長時間の運転で神経が興奮しているのかなかなか眠れない。風呂上がりビールでも飲めれば「ガマン、ガマン」。

幹線道路の国道は、そのほとんどがバイパスや（無料の）自動車専用道路になって郊外を走り、地方都市の街中を通ることはめったにない。そんな中、岩国市内を通過中、「錦帯橋」の標識が目に入る。せっかく車で来ているのに名所旧跡を一目も見えないのはもったいない、二度と見る機会がないかもしれないと、ほんの四〇五分の寄り道で錦帯橋を見学する。日本三大奇橋の一つで一見の価値はあるが、残念ながら補修中で橋を渡ることはできなかった。（ここでクイズ奇橋のあと二つはどこでしょう？）

日が暮れるのは早く徳山あたりで暗くなる。下関まではあと二時間はかかり、二泊続けての運転はつらい。今夜は徳山泊と決定、カーナビと携帯電話でビジネスホテルを即予約。こんな時文明の利器はありがたい、世の中便利なものだ。ただし使いこなせるのは子供達だけ。山口県だし海にも面しているので、ふぐ料理屋はいっぱいあるだろうと思いいホテルで尋ねたら、近くに二軒だけ。おまけに店に入れば客は誰もいない。恐る恐る値段

を確かめ料理を注文すると、おかみさんは「お客さんどちらから」と愛想がいい。九州への帰省の途中、ふぐが食べたくて高速代を浮かせて立ち寄ったと言ったとたんサービスがよくなる。周坊灘で獲れた何とかという魚の煮付け、子供達が唐揚げがおいしいといえは一尾づつ。年の暮れ、他に客がいないからといってサービスがいい。ビールやひれ酒も何本かサービスしてくれたみたい、おかげでお腹は満足、懐は大満足。

翌大晦日、早目にホテルを出る。2号線から関門トンネルへというその時、ラジオから『下関唐戸市場でふぐの』のニュースが。ためらうことなく車は下関市内へと向かう。市場はごったがえし、唐揚げ用はすんなり手に入れたが、刺身は三時間待ち。しょうがない、待つことにしよう。めかり公園に登り（今回初めて有料道路を使う）関門海峡・関門橋を眺め時間をつぶす。昼過ぎやっと手にしたふぐを土産に関門トンネル（片道二〇〇円）をくぐり九州へ。北九州から冷水峠を抜け午後五時柳川到着。二日続けてのふぐで今日もお酒がうまい。

いつもはどこへも行かない正月だが今年には吉野ヶ里へ行ってみた。赤米のお餅がふるまわれていて、ちょっとだけ太古の気分にはひたる。柳川から三〇四時間の遊びに丁度いい。

一月三日朝九時、高速道路はUターンで朝から渋滞が始まっているらしい。我々は帰りも国道で横浜を目指す。午前中に関門トンネルを抜け九州に別れを告げる。山口、広島、岡山と2号線をひた

走り、神戸から京都への近道を通り京都で1号に出る。深夜ライトアップされた東寺が美しい。しかし、魔の時間帯午前二時過ぎでは記憶も薄い。京都・滋賀と休み休み進み、鈴鹿峠を越えると東の空はようやく明るくなる。丁度ラジオ体操の時間、背を伸ばし体を動かせば不思議と頭も牙え眠気もとれる。NHKは正月でもラジオ体操を放送しているとは：早朝の1号線は順調で昼前に静岡市内に入り、この調子だと夕刻までには自宅へ着くだろう。昼食は鞠子の麦とろ飯、酒び

たりの正月のお腹にはピッタリだ。素朴な麦とろに皆満足し、一路横浜をめざす。ところが、朝とは違って変わり午後の1号線は車がびっしり。勿論高速道路も渋滞はげしい。静岡辺りだと普段の行動範囲、裏道抜け道を行くがここでも混雑している。由井から富士宮を抜け、自衛隊富士演習場脇を通り御殿場へ向かう。

山の上の道は所々アイスバーン状態で夜は怖くて走れないが、何とか明るい内に246号線に出る。御殿場から先も渋滞し東京まで続いている模様だ。ここまで無事故で来たのここであせっても仕方ない。車の流れにまかせる。午後六時御殿場でコンビニに立ち寄って以来、飲まず食わず（出さず）で午後十時ようやく自宅に到着。往復二五〇〇キロ、運転時間五十時間。よくもまあ、こんな馬鹿げたことをしたものだ。二度と出来ないだろうし、二度とやろうと思わない。

文中クイズの答

○滋賀県 瀬田の唐橋
○山梨県 大月の猿橋

2003年毎日
ファッション大賞受賞
「加茂克也」さんへの
インタビュー
高35回卒 山口英治

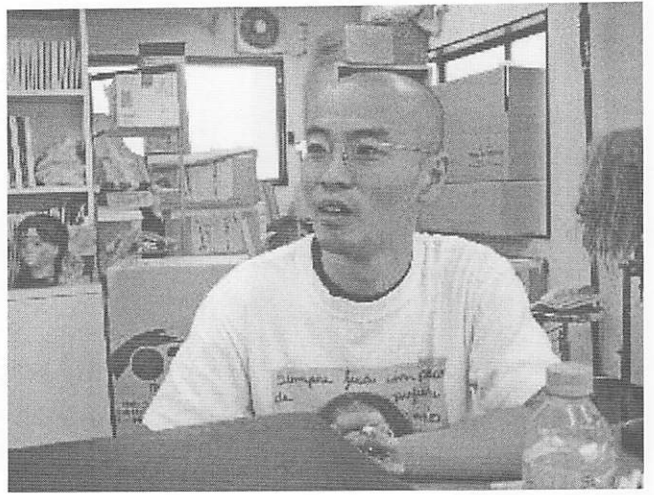
35回卒の同級生である加茂君が去る9月11日に毎日新聞主催の「毎日ファッション大賞」を受賞されました。この賞は日本のファッション界に大きな貢献をされた方へのとても権威のある賞です。過去の受賞者はコシノヒロコさん、三宅一生さんといったそうそうたるメンバーです。

加茂さんはCMでもおなじみの「モッズヘア」のヘアアーティストとしてパブリックレクションで毎年活躍されています。今や世界の「KAMO」さん。以下は受賞前のインタビューです。

加茂克也さんへのインタビュー

9/1/2003
インタビュアー 山口英治 石橋和典
場所 モッズヘア・原宿アトリエにて

原宿セコムビル前にて待ち合わせた後、通りを挟んだ裏手のアトリエにお邪魔しました。



のです。この現場にデザイナー、カメラマン、スタイリスト、照明、そして私やっているヘアスタイリストたちがチームを組んでやります。デザイナーのイメージを具現化する職人の一面とクリエイティブしていく一面があります。又各担当者同士を結びつけるようななんでもやると、いった面もありますね。

—苦労された点は—

高校卒業後に専門学校を経て東京に出てきました。3年程モッズヘアに勤めた後フリーとなってフランスに渡ったんですが、2年後に夢破れた感じで帰ってきました。

—言葉の壁ですか？差別ですか？—

と、いうより同じヘアデザイナーとして扱って貰えませんでした。とってもフレンドリーになりました(笑) 日本に帰る時は「二度と来るもんか」と。ただ「若し次に来る時があれば日本のものを輸出してやるくさ」と、思っていました。

—その後本当にフランス(パリコレ)で活躍されてヨーロッパのファッションジャーナリストで知らない人がいないというようになった—

パリというところがそうなのか、一度認められると「グリーン」と中に入り込めるようになりました。

—成功したポイントはなんででしょう—

人に恵まれました。デザイナーからだったり、カメラマンからだったり色んな刺

激を受けていい環境にあったと思います。

ビューティーという髪を扱うだけの仕事は嫌いでやりませんでした。ファッションや照明などに興味を持って小道具なんかを探してきました。

—仕事は楽しいでしょう—
きついです。(笑)

—仕事で心掛けている事は—

多少の準備はしますが、クリエイティブするひらめきや感性は現場で掴む事を心掛けています。この歳になるとある程度パターン化することが多い中で「加茂の自由度はこんなにあるのか」と言って貰えます。

—この先どこまで行くのでしょうか—

この世界、第一線を走って行っているも消えていくチームはとも早いのです。若い人もどんどん出てきています。どこまで感性を持ち続けられるかが、テーマですね。

—尊敬する人は—

社長の田村哲也さんです。東京に出て3年で本当にいろんな事を教わりました。当時の僕はなんも知らんヤツでした。

—高校生活を振り返って—

サッカーの仲間以外はなかなかコミュニケーションできなくて浮いていました。中学までヤンキーみたいやったしね。今はそうでもないよ。みんなと仲良くでき

ます(笑)

—故郷が今の仕事に影響した?—

うちは家具屋なんやけど普通は家に図鑑とかあるやん。百科事典とかね。うちはなんもなかない。なんも知らんで育った分、今になってから知る事にすっごい新鮮さがある。「うわー。そげんこつやったのかー!」って感じ。

—現役学生に何かアドバイスはありますか?—

勉強せんやったしね。でも勉強できんで良かったと思う。

—ご家族は—

7年前に結婚しました。12月に第1子が生まれる予定です。

—パリコレは何処に注目していたのですか?—

①コムデギャルソンのジュンヤワタナベ氏

②アンダーカバーのタカハシジュン氏

③ハイダーアッカーマン(ベルギー)の3人を手掛けます。

パリコレでは100を超える人が登場しますが、トップファッションジャーナリストと呼ばれる人は10人〜20人です。この人たちが見る分はせいせい10チーム分位。このうち3組を手掛けています。これは幸せな事だと思います。

ちなみにこのジャーナリストたちは舞台の両脇部分に座っています。

—この度は毎日ファッション大賞受賞おめでとうございます。—

ありがとうございます。同級生のみなさんからのお祝いのメールを読ませて貰いました。お礼を書かなきゃと思っていました。

—この賞はデザイナー以外からは初の受賞ですね。以前にノミネートされた事はあったんですか—

はい。無いと思います。今回も受賞後に聞いたものです。

—早速ですがお仕事の内容を教えてください—

ファッションシーンでは後に残るものは写真しかありません。現場1回限りのも

—マイブームはありますか？—
家具好きですね。椅子やヨーロッパの古い家具なんか見るのが好きです。

以上

—インタビュを終えて—

そこにいるのは高校時代とほとんど変わらない伝習館OBの加茂君でした。しかし、ファッションの事を話す目つきは鋭くてキラキラした、本当に充実している感じを受けました。パリに行って、日本に帰って、又世界に認められる。亡き岡本太郎さんの足跡と同じ感じを受けました。素直で奢らず、いろんな物から吸収して感性を磨く。とても勇気付けられます。これからの活躍も期待しています。

<http://www.mainichi.co.jp/news/article/200309/09m/077.html>

関連記事



学年幹事より

鎌倉散策

高7回卒 田中敬之助

十月十八日(土)同期生十五名が集まり鎌倉散策と洒落込んだ。十時に北鎌倉駅の改札口に、誰ひとり遅れることなく集まり先ず円覚寺へ。

この寺は1282(弘安5)年、北条時宗が二度の蒙古襲来で戦没した将兵慰霊のために、渡来僧 無学祖元を招いて建立したと云う。

次は、縁切寺、駆込寺とも呼ばれている東慶寺、時宗の妻 党山尼が開山となり1285年に創建された。円覚寺にしろ東慶寺にしろ、草木が可愛い花を咲かせやはり鎌倉はいいなあと感じさせた。

一行は長い行列をつくりながら建長寺へと進む。この寺は鎌倉五山第一位。

中国風の純粹な禪の道場として開かれた寺院である。宮地君が、学生達と一緒に座禅を組んだことがある、と云っていた。

鶴岡八幡宮へは道順の都合で裏側から入ることになった。相変わらず人出は多い。但し社殿の修造のため、石段を上ることはできなかった。八幡宮が源氏の氏神となるのは源頼信のとき(1000年)とされ、源頼朝が1182(治承4)年、現在の若宮に遷座したとされる。

昼食は鎌倉駅前の中華料理店に平井さんが予約してくれていたもので、すんなりと入ることができた。

鎌倉から長谷までは江ノ電に乗り、高

徳院にある鎌倉大仏を見物。この頃から少し雨が降りだしたが、カメラを撮る時だけは全員傘をおろした。吾妻鏡によれば、最初は木造で、金銅製になったのは1252（建長4）年のこと。

最後は、長谷観音で有名な長谷寺。創建は不詳だが寺伝によれば736（天平8）年と伝えられている。観音堂には高さ9mの長谷観音が祀られている。宝物館で展示物を見た後は、流石に疲れたのか店に入り、全員が串だんごと煎茶を要求した。やはり年なんですかねえ。

江ノ電 長谷駅で解散したが、散策の同期会もいいですよ。

参加者名

伊原（高口） 典子
大藪成人
古賀日出雄
高田四郎
田中敬之助
津留利生
中園（徳永） 喜久子
中村伴部
濱名哲夫
平井（古賀） 靖子
松永泰輔
宮地厚生（夫婦）
由布惟昭
龍 弘道

20回卒関東地区同期会あれこれ

学年幹事 高巢和登

七年ぶりの開催で集まりが悪いのではと心配したが、十九名の参加で一安心。二〇〇三年 九月二十七日 午後二時 麻布十番 イタリア料理「プレゴ」前店がわからないのか、はたまた柳川時間なのか？ 定刻になっても集まったのは十人位。店の前で立ち話しながら廻りを見渡し、見覚えのある顔だなあと思ったら恥もなく「おーい伝習館！」相手もニコッと手を上げる。

乾杯の後しばらくは静かだったが、アルコールが入るにつれ声は大きくなり、柳川弁まる出しになる。十九名という中途半端な人数なので貸切という訳にもいかず、間仕切りはあるが隣のテーブルの人はさぞ迷惑だったろう。二時間はあつと言う間に過ぎ二次会は青山へ。高層ビルから眺める夜景と三十五年前の思い出ばなしで大いに盛り上がり、初めて参加した人も「こんな次も絶対出るけん、はよ次ばして」ということで、次回は来年の東京同窓会の日同期会をやる事に決まりました。今回はちょっと時間オーバーしましたが、夜八時にはお開きとします。もつと書きたい事がありますが誌面の都合上（本当は酔っ払ってあんまり覚えていません）この辺りで。同期会あれこれでした。

参加者

青木（原尻） みな子
荒巻和徳
井口（古賀） ちづ子
石橋康治
浦川直美
岡賢二
海東（吉田） 信子
古賀栄樹
古賀輝博
児玉（平山） あけみ
近藤敬介
塩田（中村） 佳世
白谷政則
高巢和登
高松（江口） 信子
田中耕一郎
東寛治
広松洋二
龍章夫



「東京35会」懇親旅行便り

高35年卒 北原 博

高35年卒の「東京35会」には、愛知県以北在中の77名が参加しております。奇数年の秋は1泊懇親旅行、偶数年の秋は福岡会館などで懇親会をやっております。

その間、毎年花見会・ゴルフ会等、何かにかこつけて懇親しております。

15年有余の歴史があります。最近、福岡・大阪からの参加者も増えております。

今年、奇数年で11月7日～8日ゴルフコースと観光コースに分かれて、箱根1泊懇親旅行でした。福岡・大阪から12名参加され、柳川での還暦懇親会以来という人もいて、総員32名ホテルの計らいで深夜まで懇親を深めました。

会長挨拶に始まって、事務局から参加状況・参加できなかった人の近況報告・伝習館東京同窓会学年幹事会報告をして、当日のゴルフ大会表彰の後、カラオケ大会で盛り上がりました。

圧巻だったのは、ゴルフ場外馬券で2名の女性が当り配当金を受け取り、ゴルフをやらない人までゴルフに参加したことと、一人一人が丁寧に近況報告をして一体感が出て、その後の懇親が更に盛り上がったことでした。

最後は、福岡代表に締めてもらい、今後福岡と交互に毎年懇親会をやったらどうかと提案もされました。

「東京35会」事務局 北原博

募集中！

1. 表紙絵・表紙用写真
2. 原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ
○テーマ—自由（同窓会報にふさわしいもの）
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・絵手紙、書など
○字数制限なし（極力四〇〇字詰め（20×20）原稿用紙使用）
写真・絵・カット添付可
○表題・投稿者氏名・卒業年度・総字数を書いて下さい。

—原稿送付先—

〒344-0032

春日部市備後東 8-8-32

伝習館東京同窓会 小野 善睦 行

☎・FAX 048-735-2431

広告募集

チラシ広告

対象Ⅱ東京同窓会会員向けに製品・商品営業内容をPR、販売したい方。

- チラシ三千部を作成し（フォーム自由）事務局宛（裏表紙参照）送付下さい。会員への会報送付時に同封郵送します。
 - 広告代金Ⅱ一件につき弐万円を賛助金として頂きます。
- 今回第3号には、「有限会社 古蓮」「柳川御花 橘香園」さんよりお申込みを頂きました。
会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

編集後記

○今号も表紙は第14回卒の吉田節子さんの紹介で、同期の川口さんの素晴らしい又懐かしい絵で飾ることが出来ました。有難うございました。

作者の川口さんが経営されている『古蓮』は皆さんご承知の通り西鉄柳川駅ロータリーの真ん中にあります。帰郷の折には是非立ち寄って下さい。但し還暦を過ぎた人は普通の「せいろ蒸し」はどつきりするほどですから、お勧めは「お子さませいり蒸し」です。日の丸の旗は立っていませんが、適量で格安です。宅配便での「せいろ蒸し」も居ながらにして郷里を味わえます。

○「柳河高女物語」の跡部さま、緊急入院された由。心から早期のご快復ご退院をお祈り申し上げます。これに触発されてどんだん女性会員の原稿が送ってくるのでは・・・と期待しております。

○第35回卒の加茂さんのファッション大賞受賞は真に嬉しいニュースですね。編集委員もこういう若い世代のニュースに疎くて、こんな明るいニュースをどんだん送って頂くとやり甲斐があります。全会員の方々、メールでもファックスでもいいですからどんだんニュースを下下さい。

○どんだん・・・が続きましたが、この会報に費用をかけ過ぎるのではとの声があるそうです。費用のことは事務局にお任せでやって来ましたが、会報の目的を損なわない範囲で縮減しなければと思っております。取り敢えず今号はページ数を少し減らしてみました。次号へ繰り延べさせて頂いた原稿や一部カットしたものもあります。ご投稿頂いた方々ご了承下さい。

○会員の方々もつと興味をもって頂くような会報作りについてのご提案アドバイスも頂きたく思います。

○現在の編集委員は次の通りです。

小野 善睦（高2）

内山 秀生（高10）

永倉（跡部）素子（高10）

会長 江崎 正直（高2）

副会長 松永 肅（高5）

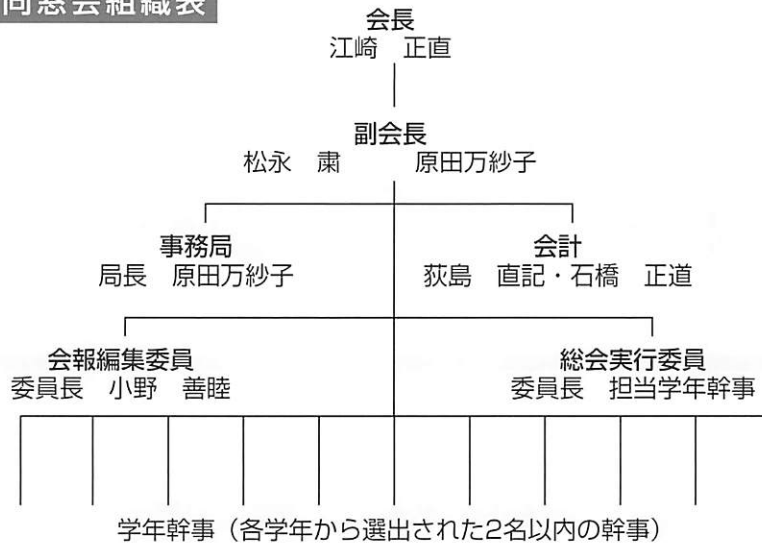
発行責任者 原田（立花）万紗子（高13）

発行責任者 江崎正直

〒156-0043

東京都世田谷区松原 3-39-25-801

東京同窓会組織表



〔内 訳〕

会員数 2608名	中学伝習館	37学年	237名
学年数 129学年	高等学校伝習館	1学年	16名
学年幹事数 57名 (33学年)	併置中学校	2学年	15名
	柳河高等女学校	29学年	213名
	教員養成科	3学年	10名
	柳河女子高等学校	1学年	3名
	併置女学校	2学年	18名
	伝習館高等学校	53学年	2096名

平成14年7月21日 現在

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成15年10月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第48回	宮本弘道	高校第6回	石橋修	高校第19回	芹川季代子（立花）
同上	中野貞幸	同上	井上弘子	高校第20回	高巢和登
中学第49回		同上（会計）	荻島直記	同上	東 寛治
中学第50回		高校第7回	田中敬之助	高校第21回	西原正道
中学第51回	松田 含（星野）	同上	津留利生	同上	白谷政則
中学第52回		高校第8回		高校第22回	北原富美男
中学第53回	古賀和典	高校第9回	石橋淑子（吉沢）	高校第23回	坂本智臣
同上	木下憲男	高校第10回	内山秀生	同上	樋口貴美子（田中）
中学第54回	浅山親司	同上	永倉素子（跡部）	高校第24回	酒見和平
同上	富重克巳	高校第11回	北原博	同上	笹子幸子（川津）
中学第55回	江崎和夫	高校第12回	橋本寛治	高校第25回	
同上	小泉祐一郎	同上	甲木宏明	高校第26回	
中学第56回	鬼丸敏雄	高校第13回	田中利道	高校第27回	
同上	成清良孝	同上（会計）	石橋正道	高校第28回	吉開孝人
高女第45回	石橋佳香（石橋）	同上（副会長）	原田万紗子（立花）	高校第29回	
高校第1回	永江政勝	高校第14回	吉田節子（堤）	高校第30回	
同上	増尾義勝	同上	浦家史好	高校第31回	
高校第2回	石崎知見	同上	石橋俊一	高校第32回	
（会長）	江崎正直	高校第15回		高校第33回	廣松崇人
（編集委員長）	小野善睦	高校第16回	梶島正司	高校第34回	
高校第3回	酒井清行	同上	安倍環江（松藤）	高校第35回	山口英治
高校第4回	白谷正敏	同上	水澤昭子（田中）	高校第36回	松藤 旦
同上	丸勢正夫	高校第17回		高校第37回	志牟田美佐
高校第5回	岸 栄洋	高校第18回	中島英治		
（副会長）	松永 肅	同上	松藤由朗		

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。

[Faint, illegible text from the reverse side of the page, appearing as bleed-through.]



伝習館東京同窓会事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込3丁目3-19 千鳥屋方
TEL 03(3915)0865 FAX 03(3918)8139
<http://www.asahi-net.or.jp/~dv4h-fior/densyukan.html>